

穂波東校 小中一貫教育だより

開校から今日までの歩み

平成30年度～令和4年度



平成30年度

開校1年目



1 穂波東校開校 ～「穂波東校小中一貫教育だより」の発行～

平恒小学校、楽市小学校の統合を経て、穂波東中が新校舎に移転し、小中一貫校穂波東校がいよいよ開校しました。新しい学校ができるというのは、数十年に一度あるかないかの大きな出来事であり、そのような歴史的な場面に同じ学校にいる先生方や子どもたちとは運命的なものを感じます。

小学部・中学部合わせて、70名を超える職員と、900名を超える児童生徒とともに、穂波東校の新しい歴史を創り上げていくことになるわけですが、開校から約3年間で創り上げた姿が、その後、何十年と続く、穂波東校の基礎となり、土台となっていくことを考えると、私たちの使命、役割は大きなものがあると感じます。

これから皆さんとともに創り上げていく穂波東校の歩みをこの「だより」を通して発信し、記録として残していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



2 小中一貫校づくりの三つの柱

小中一貫校づくりは「教育活動づくり」「学校運営づくり」「校内環境づくり」の三つの柱から成ります。前年度までの取り組みの中で、既に様々な「三つの柱づくり」が創り上げられています。

前年度までの取り組みで進められた「三つの柱づくり」の一例

- | | | |
|-----------|--|--|
| 「教育活動づくり」 | | ・クリーンアップ活動(5,7年異学年交流) ・合同全校合唱(6~9年)
・穂波東校9年間教育活動プランに基づく教育活動 etc. |
| 「学校運営づくり」 | | ・穂波東校小中一貫教育推進会議 ・穂波東校校務分掌組織
・穂波東校学習内容系統表 ・穂波東校9年間キャリア教育指導計画
・穂波東校研究部会&教科部会(代表者会)・穂波東校生活のきまり etc. |
| 「校内環境づくり」 | | ・児童生徒の作品 ・ルールの掲示物 etc. |

本年度からは小中が同一校舎になったことで、時間的にも距離的にも、これまで以上に取り組みを進めることが容易になりました。この施設一体の条件を活かし、本年度は更に「三つの柱づくり」を進めることができよう、ご協力をお願いします。

コラム：施設一体型の条件を生かす

7学年職員の朝の打ち合わせの時です。7年生の先生が「旧6年の担任の先生から、7年生が少しだらけているように見えますと、アドバイスをもらいました。」と発言されていました。周りの先生方は頷きながら聞いておられました。貴重なアドバイスは、その日の指導に活かされたことだと思います。これこそ施設一体の強みの一例です。小中の先生方の情報交換が日常的にできることは、相乗効果を生みます。今回も6年から7年にかけて起りがちな「中1ダウン」を防ぐ取り組みにつながりました。

この他にも、施設一体になったことで見えてきた小中の違いを合わせることで、その効果を高めようとする提案(例えば、家庭状況書の統一等)も日々出されています。先生方の積極性に感謝します。



1 第1回穂波東校小中一貫教育推進会議（4月27日）

穂波東校では、小中一貫教育推進会議が核となり、小中一貫校穂波東校づくりを進めていきます。

穂波東校小中一貫教育推進会議

一 構成メンバー

小学部・中学部の校長、教頭
主幹教諭です。

二 任務内容

各先生方から出されているアイデアや要望などを集約する等し、穂波東校を充実した小中一貫校にするために必要な取り組み等について話し合います。

三 会議の進め方

基本的に会議は、

① 学校運営づくり

（組織づくり・人材づくり等）

② 教育活動づくり

（異学年交流活動づくり・特色ある教育活動づくり等）

③ 校内環境づくり

（掲示物の充実・各部屋の機能化）

以上の三本柱で進めます。

四

先生方へのお願い

推進会議のメンバーへご意見・要望・疑問等をお寄せ下さい。

それでは第1回の推進会議で話し合われた内容について、要点のみ以下にお示しします。

① 学校運営づくり

ア 研究部会

前年度に引き続き、研究部会（学力向上部、生徒指導部、特別活動部）を中心に取り組みを進めます。6月に小中合同の研究部会を開きます。その中で、「9年間の教育活動プラン」をベースに重点目標や具体策について協議します。

各先生方がどの部会に所属するかについては、後日、提案が出されます。

イ 小中合同分掌部会

本年度は小中の校務分掌の一体化を図っています。必要に応じて、小中合同分掌部会を開いて下さい（小中の教務が日程調整をしますので、お申し出ください。）

② 教育活動づくり

ア 異学年交流

施設一体型の一貫校では、日常的に異学年交流を実施することができます。

小中交流給食、中期縦割り掃除、5・7年生によるクリーンアップ活動（地域清掃）などについて後日提案が出されます。

イ チャレンジ学習（仮称）

中1ギャップの解消に向け、5・6年生を対象に中学部の教師による授業を実施します。これは一般的に「出前授業」と呼ばれていますが、穂波東校では、これに少しアレンジを加えたものを実施しようと考えています。それは、中学部の教師が5・6年生の教室に向いて授業をするのではなく、5・6年生が中学部の校舎エリアに向いて授業を受けるものです。現在、「チャレンジ学習（仮称）」としていますが、良いネーミングがあれば、ご意見をお寄せください。

③ 環境づくり

穂波東校は掲示スペースが充実しています。この環境を生かして、教育環境の充実を図りたいと思います。また、部屋のスペースについても充実していると思います。これらの環境を生かすためのアイデアを練り上げ、今後提案致します



中学部の先生方、連日の体育会に向けて指導、そして本番と、本当にお疲れ様でした。素晴らしい体育会となりました。

来年度も「小学部の手本となる体育会」になるよう、力を合わせていきましょう！



○ 中学部の学力検査の結果から

4月に実施した中学部の学力検査（フクトのテスト）の結果が出ましたのでお知らせします。

県平均50に対して、全体50という結果でした。この結果に対し、昨日の職員朝礼でもお伝えした通り、片峯市長より評価と激励のお言葉をいただきました。

さて、中学部の5教科担当の先生方、今回の結果の分析はお済みですか？ 効果のあった指導法はぜひ継続して下さい。課題があれば、改善して下さい。このことについては、体育会終了後の面談の中でお聞きしますので、まとめておいて下さい。



中学部の5教科担当の先生方へ

「4月のフクトのテスト」の結果に基づき「成果・課題・改善策」をまとめて下さい。

まとめた内容は、面談の中で報告をお願いします。

また、成績上位の約1割が他校へ進学した中で、県平均を超えた7年生の結果は素晴らしいです。きっと、旧5・6年生の先生方を中心に小学部が、効果のある指導をされていたのだと思います。効率よく学力向上を図るためにも、その指導法を中学部、特に7年生には取り入れるべきだと思います。6月に、本年度の「9年間の教育活度プラン（9年間プラン）」の小中合同会議を開きます。その中で、特に中期における学力向上の9年間プランの中に、その指導法を反映させて下さい。



小学部の旧5・6年担当、学力向上コーディネーターの先生方へ

現7年生に実施した学力向上の指導方法や取り組みの中で、効果があったと思われるものをまとめて下さい。それを本年度の「9年間プラン」に反映させて下さい。

小中一貫教育では「無理なく・無駄なく・効率よく」がキーワードになります。良いものは小中で互いに取り入れ、効率よく成果を出していきましょう。



○ 飯塚市教育委員会学校訪問

開校から2ヵ月間、通常の業務に加え、引っ越しに伴う環境整備、小中間の様々な調整、穂波東校開校式、中学部初の新校舎での体育会等々、多忙を極める中、5月29日の飯塚市教育委員会学校訪問でも、先生方には大変ご尽力いただき、ありがとうございました。

「本年度開校した穂波東校が、小中一貫校として順調に学校運営ができているか等を視察し、更なる発展に向け指導・助言を行うこと」を目的に行われた今回の訪問では、高い評価をいただくとともに、多数の貴重なご指導・ご助言をいただきました。

教育活動全般に関すること

- 落ち着いた雰囲気の中で子どもたちが楽しく勉強している姿を見ることができました。
- 「新しい学校を創ろう！」という意気込みを感じることができました。
- 子どもたちが笑顔で挨拶して迎えてくれ、子どもたちがこの新しい学校に寄せるワクワク感が伝わってきました。
- 施設一体型の一貫校は、周りからは一つの学校として見られています。ですから、もし小中間の情報の共有化が図られていなければ、「何故？」と見られます。そのようなことが無いように、日々、小中間の情報の共有化を大切にしてください。
- 施設一体型の条件をフルに生かし、新しい発想で小中一貫教育を進めて下さい。
- 穂波東校は、「主体的・対話的で深い学び」「ICT教育」「英語教育」「プログラミング教育」等、新しい教育に向かって、しっかりと構想をもって取り組んでいることが分かりました。

諸教育活動に関すること

- 新たに配置した電子黒板を積極的に活用され、有難く思います。電子黒板には様々な活用方法があるので、それを研修され、今後更に活用していただきたいと思います。
- これまでも施設一体型の一貫校では、中学部からの不登校生の減少が見られます。この要因は、7年生における関係生徒の小中間の日常的な情報交換や協働体制にあると考えます。ぜひ、穂波東校でも同様の取組を実施されて下さい。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日々の授業での取組はもとより、育成した「見方・考え方」を次の学習に繋いでいくような取組をされて下さい。また、それが9年間の連続した学びの中で実現するよう取り組んで下さい。
- 「5・6年生の学期末テストの取組」は、彼らが7年生の1学期になって初めて本格的な期末テストに臨むときに、その効果が現れると思います。実際にそのような結果が得られれば、全市的に広げていきたいと考えますので、今後も情報提供をお願いします。
- 出前授業ではなく、5・6年生が中学部の校舎エリアに出向いて授業を受ける「チャレンジ授業」の構想は、大変素晴らしいと思います。ぜひ取り組んで下さい。



小学部・中学部の各先生方へ

いただいた指導助言は、今後の教育活動へ活かして下さい。

また、児童生徒に対する評価もいただいております。このことは児童生徒へもお伝え下さい。



○ 穂波東校小中合同生徒指導委員会

6月6日（水）、穂波東校小学部・中学部の合同生徒指導委員会が開かれました。
小中の生徒指導担当の先生方の企画による委員会でしたが、実り多き会となりました。

※ HP掲載のため、職員名はイニシャル表示にしております。

- | | |
|-----|--|
| 参加者 | 小学部：校長先生、教頭先生、Y先生、M先生
中学部：校長先生、教頭先生、N先生、S先生、M先生 |
| 議題 | ① グランドの使用について（小中の使用割）
② 児童生徒の移動導線について（プールへの移動時を中心に）
③ 各部からの生徒指導の報告 |

委員会の内容（議事録）は、中学部の仲上先生により「グループウェアの掲示版」にアップされていますので、ぜひご確認ください。

この小中合同生徒委員会は、今後、月1回の実施予定です。

この委員会での議題等へ要望は、小学部はY先生へ、中学部はN先生へご連絡下さい。



小・中学部の先生方へ

小中一貫校づくりにおいて、小中全職員の共通理解を図ることはとても重要です。

この点において、「グループウェアの掲示版」は、とても有効なアイテムとなります。

1日1回、「グループウェアの掲示版」を確認されるとともに、「掲示版」を通して積極的に情報を発信されて下さい。

今後、穂波東校小学部・中学部が力を合わせ、穂波東校の教育活動を充実させていくためにも、その土台となるのは「落ち着いた学校づくり」であることは言うまでもありません。

本校はこの数年、学校が荒れることなく、その中で様々な教育活動を展開することができています。

この状態を継続していくためにも、今回立ち上がった「穂波東校小中合同生徒指導委員会」を核として、問題行動の未然防止や授業規律の確立、いじめや不登校の早期発見・早期対応などに取り組んでいきましょう。

お知らせ

「グループウェアの掲示版」の校内グループは、これまで「校内全員」のみでした。しかし、これに「小学部」と「中学部」を新たに加えることができ、より使い勝手が良くなりました。担当された中学部切通主幹、ありがとうございました。



穂波東校小中合同生徒指導委員会



1 中期・後期合同行事（平和コンサート）

「飯塚市：本物・未来志向人材育成事業」は、文化・芸術・スポーツ等の分野において、その第一線で活躍されている方を学校に派遣し、「本物との出会い」を通じて、未来志向の人材育成を図る事業です。

本年度は、この事業の一環として「宮良さんの平和コンサート」が、穂波東校中学部と伊岐須小で実施されました。また、穂波東校では、小中一貫校の利点を生かし、5・6年生も参加しました。

児童生徒は、暑い中、長時間よく集中して、宮良さんの歌と語りを聴いていました。「穂波東校の児童生徒の皆さんが、あんなに集中して聴いてくれ、本当に感激しました。」との宮良さんのお言葉は、翌日の職員朝礼でお伝えした通りです。

次回もチャンスがあれば、無理が生じないように配慮しつつ、児童生徒と「本物」との出会いを創っていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

最後になりますが、平和コンサートの実施に至るまで、その企画立案、準備・実施・後片付けにご尽力いただきました先生方、本当にありがとうございました。



2 穂波東校：小中一貫教育全体会・研究部会

「穂波東校：小中一貫教育全体会・研究部会」では、お疲れ様でした。会は「多目的ルーム」で開かれましたが、ここは小学部・中学部の全職員が一堂に会することができる点で大変有難い部屋です。

全体会の中で嘉村教頭先生より提案があったように、穂波東校は各種部屋や倉庫が充実しているので、これらを大いに活用し、教育活動の充実や、先生方にとっても仕事がしやすい環境づくりを進めていきたいと思いをします。

さて、全体会・研究部会の議事録については、既にグループウェアの掲示板にアップされていますのでご確認下さい。以下にその要点のみお示しいたします。



(1) 全体会

城石校長先生より「児童生徒のコミュニケーション能力」「主体的・対話的で深い学び」「児童生徒間の挨拶」「黙々掃除」「教材庫・相談室・掲示クロスの活用」について課題が提起されました。

また、嘉村教頭先生より穂波東校の各部屋等の活用に向けた今後の計画が提案されました。

(2) 研究部会

① 学力向上部

各学年の実態の交流を行い、学習規律や話し合い活動、書く力等について課題を整理しました。整理された課題に対して、その解決の手立てを8月6日の学力向上部会で協議することが確認されました。

② 生徒指導部

現状の課題を確認するとともに、「児童会・生徒会による挨拶運動」「穂波東校生活のきまり」「昼休み巡回等（校舎の死角に対応する取組）」等について協議されました。具体的な手立てについては、「だより5号」でも紹介した「穂波東校小学部・中学部の合同生徒指導委員会」で話し合われます。

③ 特別活動部

穂波東校異学年交流として「中期の縦割り掃除」「5・7年生クリーンアップ活動（地域奉仕活動）」の時期や内容について話し合われました。「中期の縦割り掃除」については8月21日に、「5・7年生クリーンアップ活動」については1月下旬に実施案が提案されます。



1 異学年交流：平和学習の折り鶴づくり

8月6日の平和学習では、田川人権センター所長を講師としてお招きし、穂波東校全児童生徒を対象に戦争や平和についてご講演をいただきました。当初は大アリーナでの講演を予定していましたが、今年の夏の猛暑を考慮し、7月の早い段階で大アリーナでの講演を止め、各教室でのテレビ放送の講演に切り替えました。このことは適切な対応であったと思います。この対応の中心となられた小中の人権・同和教育担当の先生方には感謝致します。

講演後は折り鶴づくりを行いました。折り鶴づくりに支援が必要と思われる小学部の低・中学年には6年生から9年生の児童生徒が各教室に出向いて、先生役となり、折り鶴づくりの指導・支援を行いました。



小学部児童に折り鶴づくりの指導・支援を行う中学部生徒

異学年交流は「1年生・6年生」「2年生・7年生」「3年生・8年生」「4年生・9年生」の組み合わせで行いました。異学年交流では、「取り扱う内容」によって適切に「学年の組み合わせ」を選定することが肝となります。今回は適切な組み合わせであったと感じました。

異学年交流を通して上級生は下級生の手本となり、下級生は上級生を手本とし、上級生は自尊感情の向上を下級生はモデル形成等を実現しながら、互いに高め合うことができます。これからも穂波東校小学部・中学部で協力し、多様な異学年交流を創造していきましょう。

コラム：ヒトは教えることに喜びを感じる！？

今回の異学年交流で印象的だったのは、教える側の上級生の生き生きとした姿でした。とても楽しそうに鶴の折り方を教えていました。筆者は8月4・5日、CoREFの研修会に参加させていただき、その中で、「ヒトは他者に自分の知っていることを教えることに喜びを感じる。」という意見を聞きました。この意見には続きがあり、「故に、エキスパート活動で資料の内容と既存の知識をしっかりと関連付け、『知っている状態』にすることが、その後の活動に大きく影響する。」という主張でした。異学年交流の上級生の姿から改めてその主張の正当性を感じました。

2 穂波東校環境づくり

「校内環境づくり」は、小中一貫校づくりの柱の一つです（「だより第2号」参照）。

8月6日の午後、穂波東校全職員により教材庫、教員室、印刷室等の整理・整頓を行いました。

これにより、より使い易く、機能的な穂波東校の校内環境になったと思います。これまで以上に、業務を効率よく進めることが可能になったと感じます。先生方、大変お疲れ様でした。



小学部・中学部の各先生方へ

今回の作業で、廃棄した備品があれば、必ず事務の先生へ報告して下さい。

また、備品を別の部屋に移動し、配置替えをした場合も、事務の先生へ報告して下さい。



○ 穂波東校：異学年交流の創造

だより前号では、本年度、穂波東校の異学年交流として新たに創られた「異学年交流：平和学習の折り鶴づくり」を紹介し、生き生きとした児童生徒の姿をお伝えしました。

2学期に入り、先生方の創意工夫・ご努力により、また新たな異学年交流が創られていますので紹介します。

◎ 小中合同表彰式

穂波東校の部活動はこの夏の大会・コンクールにおいて大いに活躍し、たくさんの表彰を受けました。2学期の小中合同始業式では、表彰を受けた各部や部員たちが、夏の大会で手にした優勝旗や賞状を持ってステージに立ち、全児童生徒に披露しました。中学部の部活動生には自尊感情の向上が、小学部の児童には「穂波東校の先輩たちはすごい。」「私もあんな先輩たちのようになりたい。」といった目標やモデル形成が図られたことと思います。



賞状や優勝旗、優勝カップを手にした先輩たちを見つめる小学部の児童たち

◎ 小学生と美術部員のコラボによるオブジェづくり

玄関ホールには、金子みすゞさんの「大漁」をモチーフした、素晴らしい作品（オブジェ）が展示されています。この作品は現在作成進行中です。美術部が中心となり、希望する小学生を受け入れ、ともに作品をつくっています。小学生は、美術部員の手ほどきを受けながら、魚（イワシ）の絵を作り、それを土台に貼っていきます。活動時間は昼休みです。毎日、何人もの小学生が活動に参加しています。

筆者にとって、このようなスタイルの異学年交流は初めて見ます。施設一体型小中一貫校における異学年交流の先駆的な取り組みであると感じています。



美術部員の手ほどきを受けながら、魚の作品をつくる児童たち。すべての魚がやがて一つの大きな群れとなります。

◎ 児童会・生徒会合同朝の挨拶運動

9月4日～11日、児童会・生徒会合同朝の挨拶運動が取り组まれました。1学期にもプレ的に取り组まれました。この時は、児童会と生徒会は互いに少し離れた場所で行っていましたが、2学期からは、互いに混ざり合っ、正に合同で取り组んでいました。取り组みが少しずつ進化している事例となりました。



児童・生徒がいっしょになったの挨拶運動

今後には計画されている異学年交流として、次の取組があります。

○ 中期縦割り掃除（9月18日～28日）

「7年生に中期リーダ学年としての意識・態度の育成」「5・6年生に中学生に向けたモデル形成」「学年の異なる集団での人間関係構築の能力の育成」、並びに「中期教職員の協働体制の構築」等をねらいとし、中期縦割り掃除を実施します。

○ チャレンジ授業（10月）

児童が中学部エリアに出向いて授業を受ける、出前授業の逆バージョンであるチャレンジ授業が実施されます。10月は音楽、理科が予定されています。チャレンジ授業では、児童に「やがて中学部に進学する」という意識をより強く持たせることをねらいとしています。ですから、児童には授業前にその心構えをしっかりと持たせる必要があります。この点については、小学部の該当クラスの先生方、よろしくお願ひします



1 チャレンジ授業

2学期に入り、いよいよチャレンジ授業がスタートしました。

チャレンジ授業は、従来の“出前授業”の逆バージョン！児童が中学部の教室に出向いて受ける新バージョンです。小中一貫教育の取組としては、斬新なアイデアであると言えます。

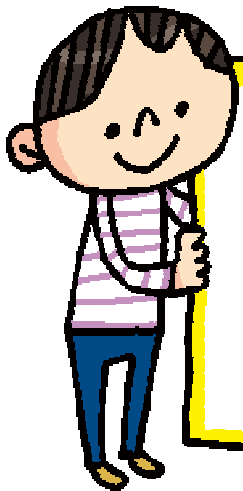
このチャレンジ授業では、児童が中学部の教室に実際に出向くことで、「やがて中学生になんだ！」という意識をより強く持たせることが期待できます。

また、穂波東校では、小学部の担任が事前指導を行っていることから、その効果は更に高まっています。

小学部で取り組まれた事前指導の内容（一例）

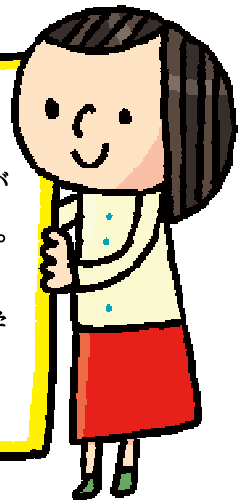
- 中学部の50分の授業でも、集中が途切れないように頑張ろう。
- 中学部の授業では、ノートを早く書けることも必要になってくるので、意識しよう。
- チャレンジ授業を通して、専門性の高い教科の学習を経験し、中学生になるための準備をしよう。
- チャレンジ授業は移動して授業を受けるけど、時間に遅れないようにしよう。

そして、チャレンジ授業を受けた児童からは、その良さを認める感想が出ています。



チャレンジ授業を受けた児童の感想（一例）

- 音楽の授業を松尾先生にしてもらって、歌のうたい方が変わって、歌がうたいやすくなりました。だから、元々苦手だった歌が好きになりました。
- 理科は実験だけでなく、実験に使う物の説明までしてくれて、分かりやすかったです。中学校に入っても忘れずに話をちゃんと聞いて、小学校より聞く態度を良くして学んでいきます。
- （チャレンジ授業を通して）中学校に入るのが楽しみになりました。



今後も色々な教科でチャレンジ授業を展開したいと思いますので、先生方のご協力をお願いします。



チャレンジ授業：音楽



チャレンジ授業：理科

2 小中合同生徒指導委員会

先日、中学部の仲上先生が職朝でお知らせしましたので、繰り返しは致しませんが、その内容が議事録としてまとめられ、掲示板上に掲載されていますので、ご一読をお願いします。

その中にも書かれていますが、小学部の運動会準備に中学部の部活生が協力します。小学部の先生方のお役に立てることで、自己有用感の向上や、共助の意識の醸成につながることを期待しています。

1 21世紀を生きる子どもたち ―社会的・職業的自立に向けて―

(1) 穂波東校の「未来志向・本物志向の教育」

既に世の中は、「多くの仕事がAIに代替される社会」「多国籍の方々とともに働き、生活する社会」へと急速に移行し始めています。このように変化する社会の中で、将来、子どもたちが社会的・職業的自立を果たすことができるよう、穂波東校でも「飯塚市の教育施策」に基づき、「小中一貫で取り組む協調学習」「チャレンジ授業等によるプログラミング学習」「本物との出会い事業の活用」等の「未来志向・本物志向の教育」に取り組んでいます。

(2) 穂波東校の「英語教育」

「未来志向・本物志向の教育」の一環として、穂波東校では「英語教育」の充実に向け、様々な取組が展開されています。

① 「Co-Learning Time」(異学年交流学习。略してCL Time)

中学部の生徒が先生役となり小学部の児童に学習の支援等を行う「CL Time」。

今回、8年生と3年生による「CL Time」を実施しました。

○単元：第3学年「好きなものを伝えよう」

○本時の主な英語表現：Do you like ○○? Yes, I do. / No, I don't.



先生役の中学生と本時の英語表現の練習をする児童たち

好きなものを聞き合う活動を行っている様子

② 日常的に英語に触れることができるような環境づくり

「英語に慣れ・親しみ、英語によるコミュニケーション能力を育てる」をねらい、穂波東校では「小学部のオンライン英会話」や「中学部のオールイングリッシュに迫る授業」等の英語の授業に加え、校内の色々な場所に英語に関する掲示物を整備し、日常的に英語に触れる環境づくりにも取り組んでいます。





1 穂波東校「小中一貫教育研究発表会」

研究発表会に向け、穂波東校の全職員の皆様には大変ご尽力いただきました。本当にお疲れ様でした、そして、心より感謝申し上げます。

当日は市内学校から 59 名、市外学校から 5 名、行政機関から 18 名の参加をいただきました。そして、多くの意見、感想が寄せられました。

寄せられた意見・感想

- ・ 協調学習の進め方（時間配分、指示の出し方）など参考になりました。
- ・ ジグソー活動後のホワイトボードの使い方が良かったです。「3つはキーワードを、中心には説明文を」とすることで見ている人に伝わりやすいため、質問が出やすいと思います。
- ・ 2年生活科を見せていただきました。流れがスムーズで「日頃から練習をしてあるのだろうなあ・・・」と思いました。
- ・ 社会科の協調学習をあまり参観する機会がなかったので、エキスパートの組み方等、参考になりました。
- ・ 中学年の協調学習の実践が参考になりました。時間の使い方など効果を上げるためには工夫をしていきたいと思います。
- ・ 美術の授業で、エキスパートの内容が生徒の声を基に作られており、新たな協調学習のスタイルを知ることができました。
- ・ Co-Learning Time、異学年交流学习（英語）が面白かった。8年・5年が同じテーマで各々に別の課題設定を行って授業を行っていた。意識すべき相手がいることで上学年にとって課題がより切実なものとなったり、下学年にとって上学年が助けになったりするのだと思う。本校でも行いたい。
- ・ プログラミング学習の進め方について参考となる方法を知ることができた。
- ・ 研究紀要には、小中一貫教育の取組がわかりやすくまとめられていて参考になった。
- ・ (研究紀要にある) 学習内容系統表で小学校から中学校の内容までの系統表は見たことがなかったので参考になりました。一貫校だけでなく、小学校にあってもいいと思いました。
- ・ 校舎内の掲示物、環境づくりなど工夫があり、小中一貫での取組、教育効果を上げられている様子がわかりました。
- ・ 案内が大変わかりやすく、迷うことがありませんでした。

※ この他にも多くの意見・感想等が寄せられました。嘉村教頭先生がそれらをまとめていますので、「グループウェアの掲示版」にアップしておきます。ぜひご一読下さい。

寄せられた意見・感想から、「日頃悩みながら小中一貫教育を進めている他校の先生方にとっては、穂波東校の取組は一つのモデル（手本）になったのかな！？」・・・と感じました。

これらかも寄せられた意見・感想を活かす等し、小学部・中学部で力を合わせ「穂波東校の土台を創る者としての使命」をしっかりと果たしていきたいと思いますので、先生方よろしくお願ひします。

2 穂波東校：異学年交流の創造

穂波東校で、また新たな異学年交流が創られました。「かけ算九九：異学年交流」です。11月26日から12月14日までの昼休み、中学部のボランティア(現在18名)の生徒が先生役となり、小学部2年生の「かけ算九九の暗唱」を聞いてやり、その評価や指導をしています。いわば、「かけ算九九の C-L Time：昼休み・ボランティア版」といったものです。児童も生徒も生き生きとした表情で取り組んでいます。とても素晴らしい光景です。先生方一度その様子を見に行かれて下さい。(会場は2年生教室)





◎ プログラミング教育

(1) 飯塚市とソフトバンクの協定

飯塚市は、プログラミング教育に係る教育環境の充実や、ロボットと共生する社会で活躍する人材の育成を目指し、ソフトバンクと教育分野での連携に関する協定を結びました。協定では、飯塚市は、ロボット「ペッパー」を市内全小中学に導入し、プログラミング教育の充実・人材育成を図るとしています。締結式で片峯市長は「プログラミング教育の充実はもちろん、学習、教育環境の総合的な整備が進むことを期待している。」と挨拶されました。

今回の締結により、穂波東校でも小学部・中学部1台ずつの「ペッパー」が配置されるようになりました。

(2) 穂波東校のプログラミング教育

現在、穂波東校では小学部高学年を対象にScratchを、中学部では経済産業省の「未来の教室実証事業」で開発されたMOZERを使って（MOZER開発の研究協力校として）プログラミング教育に取り組んでいます。いずれも、中学部技術科担当の切通主幹が中心となつての先進的な取組です。

Scratchはボックス型の言語を使い、画面の中のロボットを動かします。児童はバーチャル空間でロボットが思い通りに動くようにプログラミングに取り組みます。

MOZERはHTML・CSS（ボックス型より更に実際に使われている言語に近い言語）を使って、webデザインに取り組みます。

このような穂波東校が小中一貫教育として取り組んでいるプログラミング学習に、「ペッパー」配置の条件が加わることで、更なる充実を図ることが期待できます。

(3) 「ペッパー」の活用

「ペッパー」の活用の幅は広く、大きな可能性を秘めています。前述したようなプログラミング学習だけではなく、「ペッパー」の言語設定を変えることで英語学習でも活用することができます。この他には、徹底反復学習にも活用することができます。報道では、防災教育での活用が紹介されていました。

穂波東校にも「ペッパー」が配置されます。

先生方のお力で子どもたちの目が輝くような活用が展開されますことを期待しています。

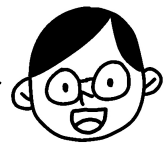


◎ 小中一貫教育を切り拓く（その1）

穂波東校は、驚くべき短期間に、他の小中一貫校と肩を並べる小中一貫教育を「教育活動づくり・学校運営づくり・校内環境づくり」の三つの柱で創り上げ、その一端を昨年の研究発表会で披露し、高い評価をいただきました。先生方のご尽力には、いつも感謝しています。

そこで、この穂波東校の小中一貫教育を更に一步前進させるために必要な「見方・考え方（理論）」及び「具体的な取組（案）」をお示ししたいと思います。

穂波東校小学部・中学部の全職員が、同じ見方・考え方を持って、同じ方向性で取組を一步前進できればと思っています。
取組は「無理なく・無駄なく・効率よく」進めます。
「だより」は3号に分けお伝えしますので、ぜひ、ご一読下さい。



「だより」は2月14日（木）に予定されている「小中合同研修会」でも資料として取り扱う予定です。

(1) 小中一貫教育とは

小中一貫教育は、子どもの連続的な学びと育ちの実現を目指す教育です。

以前はその目的が「中1ギャップの解消」と表現されていました。しかし、近年では「子どもの連続的な学びと育ちの保障（連続的な教育）」へと変わり、小中一貫教育のとらえが「小6から中1への接続期のみの教育」から「小1から中3までのすべての繋ぎに係る教育」となっています。

穂波東校でも、中期だけではなく、前期・中期・後期のすべての期間において小中一貫教育に取り組みましょう。

(2) 連続的な教育

「連続的な教育」の第一の目的は、言うまでもなく、「子どもの連続的な成長」です。

「連続的な教育」の取組例を、「学力テストの結果分析」で説明します。

学力テストの結果分析において、「全国・県平均の平均と比較する」等の「同一学年同士の比較」（これを「横方向の見方」と言います）に留まった場合、これは「連続的な教育」とは言えません。この「横方向の見方」による分析も大切ですが、対象の子どもの前年度までの結果との比較（これを「縦方向の見方」と言います）を行ってこそ「連続的な教育」となります。

この他にも、異学年交流を通じて、子どもたちが互いに手本としたり、手本とされたりしながら成長していくことも「縦方向の見方」に基づく「連続的な教育」の一例であると言えます。

「縦方向の見方」は小中一貫教育において重要なポイントとなります。

穂波東校でも「縦方向の見方」に基づく「連続的な教育」の充実に取り組みましょう。



◎ 小中一貫教育を切り拓く（その2）



前号では「縦方向の見方」に基づく「連続的な教育」について触れました。

そこで、今回は、次の2点について述べたいと思います。

- 連続的な教育が目指すもの
- 連続的な教育の、もう一つの意義

(3) 「連続的な教育」と「キャリア教育」

「連続的な教育」が目指す先には何があるでしょうか。

子どもはどこに向かって連続的に成長していくのでしょうか。

その答は一つです。変化の激しい社会の中でも、心豊かに自分らしく自己の未来を切り拓く力や、共助や社会参画の意識を持って社会の未来を切り拓く力を持った人への成長を目指しています。

ここまで述べるとお気づきだと思いますが、「連続的な教育」が目指す先には「キャリア教育が目指す人づくり」があるのです。

小中一貫教育は、キャリア教育を中心にすえて取り組みましょう。

お知らせ

現在、飯塚市教育委員会では「キャリア教育を中心に据えた小中一貫教育」の全体構想図を作成中です。近日中に完成版が示される予定です。

これを大いに活かし、穂波東校の取組を充実させていきましょう。

(4) 連続的な教育 ～もう一つの意義～

子どもにとって指導者（担任、教科担任等）が変わることは、大きな出来事です。そして、指導者が変わることで、これまでの学習や生活のルールやスタイル等が変わることがあります。また、以前やったことと同じような学習活動を再びやらされることもあります。

このようなことは、現実には起こり得る事かもしれませんが、しかし、このようなことが沢山あったり、指導者の丁寧さを欠いたりした場合、子どもにとってギャップを感じるものになっていきます。

「小中9年間を通して、同じルールやスタイルを確立すること」、「子どもの発達に合わせてルールやスタイルを段階的に変えること」や、「小中9年間を通して、同じような学習活動を減らしていくこと」等は、「子どもの側に立った連続的な教育」を実現する第一歩であると言えます。

次回「だより」では、「子どもの側に立った連続的な教育」について、「カリキュラムマネジメント」と「働き方改革」の観点から述べていきたいと思っています。



◎ 小中一貫教育を切り拓く（その3）

シリーズ最終号となる本だよりでは、「子どもの側に立った連続的な教育」について具体的にお話しさせていただきます。



(5) 「子どもの側に立った連続的な教育」の実現に向けて

「子どもの側に立った連続的な教育」の実現に向けて、私たち教師はどのように取り組んでいけばよいでしょうか。実は、現段階でその明確な答はありません。今まさに小中一貫教育に先駆的に取り組んでいる学校や研究機関等が、その答を究明しているというのが現状です。穂波東校としても、何かできることはないでしょうか。

そこで一つ提案です。まずは、穂波東校の中で「子どもの側に立った連続的な教育」の実現に向けた意見交流をしてみてもどうでしょうか。例えば、穂波東校の中で、指導者が変わることで「学習や生活のルールやスタイル等が大きく変わるようなことはないか。」「以前やったことと同じような学習活動をさせていることはないか。」等について、互いに実態を出し合い、それに対して意見を交流し合うようなことから始めてみるはどうでしょうか。

もし上記のような意見交流の成果をカリキュラムに反映させることができれば、それは有効性のあ
るカリキュラムマネジメントの実現にも繋ぐことができます。但し、このことは、その次の段階に取り
組むことであると考えますので、まずは、実態を出し合うことから始めてみましょう。

小中一貫教育の推進は「無理なく・無駄なく・効率よく」！



(6) 「子どもの側に立った連続的な教育」と働き方改革

「子どもの側に立った連続的な教育」を実現することは、教師にとっても大きなメリットがあります。この「教育」は、教師の側から見れば、業務効率の改善であると言えます。もし、穂波東校として一貫した学習や生活のルールやスタイル等を確立することができれば、これに係る年度初めの指導を効率良く進めることが可能になります。また、同じような学習活動の繰り返しを減らすことができれば、指導業務の軽減に直結します。

「子どもの側に立った連続的な教育」の実現を通して、「教師の働き方改革」の実現を図りましょう。



1 沖縄県金武町からの視察

沖縄県金武町の視察では、主に担当された小・中経営部会の先生方、大変お疲れ様でした。

視察の協議会では、穂波東校の小中一貫教育（主に異学年交流）、英語教育、プログラミング教育、学力向上等について、熱心な質問や感想をいただきました。その中で「何故飯塚市は、どの小中学校でも同じ方向性で教育活動に取り組むことができるのですか。」「飯塚市であれば、異動をしても、これまで自分が取り組んできた教育活動の方向性を変える必要がなく大変羨ましく思います。」「MIM、徹底反復学習、協調学習、小中一貫教育等の様々な教育が全市的に取り組まれていることがすごいと思います。」の感想等があり、改めて「飯塚市の強み」を認識することができました。

また、視察団の代表の方から「貴校の児童生徒さんはよく挨拶をされますね。」とお言葉をいただいたことは、凡事徹底に取り組んでいる穂波東校職員の一人として大変うれしく思いました。

今回、視察を受けたことは大きな刺激となりました。これからも、現状に留まることなく、小学部・中学部で力を合わせ、穂波東校の教育を発展させていきましょう。



授業見学をされる
視察団の先生方



穂波東校の小中一貫
教育等についての協
議会

2 飯塚市教育講演会 ー大杉 住子氏 講演会ー

2月23日（土）の飯塚市教育講演会に参加された小・中学部の先生方、お疲れ様でした。

参加者は優に100名を超え、今後の教育改革に対する関心の高さに驚きました。

講師の大杉先生は、「これらかの時代に求められる資質・能力」について、新学習指導要領や大学入試改革と関連付けながら、とても分かりやすく解説されました。沢山のことを学びましたが、その中で、小中一貫教育に関連することを私なりにまとめましたので、以下にお示しします。

(1) 思考力の育成は一日して成らず

大杉先生は思考力に育成について「子どもの思考力は、“縦のつながり”の中で育成されます。目の前の子どもの思考力を育成する際、これまでに“どのように”“どのような”思考力を育成しているかを踏まえて、取り組むことが大切です。」と言われていました。

思考力の育成においても、「小中一貫だよりNo.13～15号」でもお伝えした“縦方向の見方”が重要であることが改めて分かりました。“縦方向の見方”の取組を進めていきましょう。

(2) 入試に込められたメッセージを読み取る ー今のままの授業で良いのかー

大杉先生は「入試問題には、“これからの時代に必要な能力は何か”というメッセージが込められています。」「これらかの入試問題は、一つの出来事を多角的に考える問題、複数の資料から一つの結論を導き出す問題、ある結果をグラフ・表・図等の多様な方法で表現させる問題などが主になります。」「今の学校では、思考力を育てる授業を行っている」という前提で入試問題をつくります。」と言われていました。そして、「それは“すべては子どものため”であり、“激しい変化の中でも生き抜くことができるようになるため”です。」と。

社会が激しく変化し、入試（大学だけではなく、高校・中学も）も変化しています。

「穂波東校の日々の授業、中学部の定期考査の問題等々、今のままでよいか!？」

もう一度、このことについて、考え、意見交流し、取組を進めましょう。

令和元年度

開校2年目



1 新しい年度を迎えて

新しい年度を迎え、新メンバーでスタートした穂波東校。本年度も、“チーム穂東”として、一人一人が、また、小学部・中学部が、それぞれの役割をしっかりと果たし、事においてはチーム力で対応していきたいと思っておりますので、先生方よろしくお祈いします。

「小中一貫校づくりは開校して3年間が勝負だ！」と言われております。来年度の「小中一貫教育全国大会」も見据えながら、“チーム穂東”として頑張りましょう！



本年度、穂波東校に転入されました先生方には、近日中に、昨年度までの「穂波東校の小中一貫教育の取組」等について説明させていただく場を設けます。期日等が決まりましたらお知らせします。
また、昨年度までの歩みは、本校HP「小中一貫教育の取組」に掲載している「平成30年度穂波東校小中一貫教育だより」をご参照下さい。

2 新「穂波東校：9年間の教育活動プラン」

「穂波東校：9年間教育活動プラン（以下、9年間プラン）」を刷新します。その概要は、次の通りです。

① 各期の目標

「前期・中期・後期」の各期において「知（学力向上）、徳（豊かな心・規範的行動）、体（体力・耐性）」の目標を表します。

② 取組

各期の目標を達成するための具体的な取組を表します。

ここまでは、一般的な9年間プランと同じです。

（「知・徳・体」で整理した点、レイアウトなどにおいて、一部昨年度と変えています。）

③ 本年度の課題

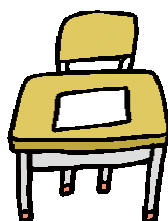
各期における「知・徳・体」の課題を表します。

この③が新たに加わります。そして、③の中で「これは小学部・中学部が力を合わせて取り組まないと解決しない」と考えられる課題を本年度の小中合同研究部会の研究テーマとします。

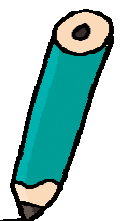
以上は、「生きて働く9年間プラン」を目指しています。

現在、小中合同経営部会にて内容を練り上げております。第1回目の小中合同研修会にてその具体的な内容をお伝えします。

先生方のお力で真に「生きて働く9年間プラン」になるよう、よろしくお祈いします。



現在、「活用力の育成（全国学テB問題⇒全国平均以上）」
「不登校児童生徒の減少」等の研究テーマを考えています…





1 「小中一貫校教員の職務」に関する規定の整備

穂波東校のように「施設一体型の小中一貫校」では、「小中の教員」が、小中分け隔てなく児童生徒への指導を日常的に行います。このことを法的に裏付けを持って可能にするために、昨年度までは「施設一体型の小中一貫校」の全ての「小中の教員」に対して「小中兼務辞令」が出されていました。

しかしながら本年度より、兼務辞令を発令することなく「施設一体型の小中一貫校」の教員が、必要に応じて自校の児童生徒の指導ができるよう「飯塚市立学校管理規則」に関連規則が盛り込まれました。

飯塚市立学校管理規則（一部抜粋）

小中一貫校

第29条 次の表の左欄に掲げる小学校及び中学校は、小中一貫校として開校の日から同表の右欄に掲げる名称を称する。

小学校及び中学校		小中一貫校の名称
飯塚市立幸袋小学校	飯塚市立幸袋中学校	飯塚市立小中一貫校 幸袋校
飯塚市立飯塚鎮西小学校	飯塚市立飯塚鎮西中学校	飯塚市立小中一貫校 飯塚鎮西校
飯塚市立穎田小学校	飯塚市立穎田中学校	飯塚市立小中一貫校 穎田校
飯塚市立穂波東小学	飯塚市立穂波東中学校	飯塚市立小中一貫校 穂波東校

2, 3略

4 第1項右欄に掲げる小中一貫校の職員は、必要に応じて左欄に掲げる小学校及び中学校の児童、生徒の指導に携わることができる。

穂波東校の先生方におかれましては、本年度も、日常的な指導に加え、チャレンジ授業やCLタイム、様々な異学年交流などにおいて、小中分け隔てなく児童生徒への指導に積極的に取り組まれますようお願いいたします。

2 令和元年度：「穂波東校 代表校長」

飯塚市立小中一貫校において穎田校を除く幸袋校、飯塚鎮西校、穂波東校の三校には、小中それぞれに校長が配置され、両校長による、言わば共同経営により一貫校の運営が行われています。

穂波東校ではその共同経営が円滑に行われるよう、定期的に小中合同経営部会が行われ、併せて、小中の校長による合議を日常的に行っています。その中で、穂波東校の小中一貫教育に係る内容については、穂波東校代表校長がその決済を行っています。

昨年度の穂波東校の代表校長は城石校長先生でした。本年度は中学部 山本が代表校長を務めます。

円滑な小中の連携、及び本校における小中一貫教育の更なる発展に資するよう代表校長を務める所存ですので、先生方のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



今回は、本だよりを本日の研究会の資料とします。
それでは、この資料に沿って、本年度の「小中一貫教育の研究」について説明します
ますので、よろしくお願いします。

1 「9年間プラン」の改善

本日より本年度の「穂波東校小中合同小中一貫教育研究会」をスタートします。

まずもって、この会の名称は長いので、通常は「小中合同研」と略したいと思います。

さて、本年度の小中合同研のテーマは、「生きて働く9年間プラン」(☞ お気づきの通り新学習指導要領のキーワードを引用しています!)です。

(1) 9年間プラン

「9年間プラン」は「9年間の教育活動プラン」の略であり、これは穎田校から始まった飯塚市オリジナルの小中一貫教育の取組の一つです。先生方にはご理解いただいているこの「9年間プラン」を改めて定義・説明すると次のようになります。

「9年間プラン」⇒各中学校区で定めた小中一貫教育の柱（例えば学力向上、豊かな心の育成など）において、前期・中期・後期ごとに教育目標とその達成に向けた教育活動をまとめた小中一貫教育の全体計画。これにより中学校区の小中の教職員が共通理解の下、小中一貫教育を進めることができる。

9年間プランのように、9年間を3区分し、「前期→中期→後期」へと「ホップ・ステップ・ジャンプ」と児童生徒の成長の姿（教育目標）と、そのための手立て（教育活動）をまとめた全体計画は、小中一貫教育を進めていく上でとても有効です。

飯塚市では、毎年度、各中学校区ごとに9年間プランを作成し、年度の初めにその内容を中学校区的全職員で確認し合います。そして、年度途中に「9年間プラン」に基づく実践交流等を行い、年度の終わりに総括を行います。そして、このような取組により一定の成果を積み上げてきました。

(2) 9年間プランの課題

筆者はこの9年間プランの持つ効果を認めつつ、一方で改善の余地を感じていました。穎田校で9年間プラン誕生に関わってきた筆者がこのように述べることは「いかななものか!？」と思いますが、正直なところそのように感じていました。

9年間プランは、各中学校区で小中の教職員により組織的・計画的に児童生徒を9年間を通して育てていく上でとても有効ですし、筆者自身それを実感していました。もし、この9年間プランが無ければ、各中学校区の小中一貫教育は漠然としたものになったと思います。

しかし、一方、「この9年間プランにより中学校区が抱える課題が解決できた!」と実感したことは正直なところありませんでした。9年間プランの取組が、中学校区の課題解決につながるような、言わば、「生きて働く9年間プラン」になるためには、更なる改善の必要があると考えました。

(3) 生きて働く 9年間プラン

課題解決につながる9年間プランにするためには、とても単純なことです、「9年間プランの中に課題を盛り込めばよい。」というのが結論です。そのイメージとしては、次の図を参照して下さい。

令和元年度 飯塚市立小中一貫校 穂波東校「9年間の教育活動プラン」

穂波東校学校教育目標 社会を生き抜く力の根っこを育てる

校種		小学部						中学部		
学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
期		前期			中期			後期		
目 標	知	学力向上								
	徳	豊かな心								
	体	体力向上								
取 組	知	学力向上								
	徳	豊かな心								
	体	体力向上								
課 題	知	学力向上								
	徳	豊かな心								
	体	体力向上								

従来のものに課題が加わっただけで、見た目には、大きな変化は感じられないと思います。

ちなみに課題をまとめる際は、このための会議を別途持つわけではなく、年度末に行う「教育指導計画書に沿った反省職員会」で確認された内容を基にまとめます。（このようなことも無理・無駄を無くす上で大切です。）

さて、これだけで「生きて働く9年間プラン」になるのでしょうか。いいえ、ここでもう一つ手を加える必要があります。それは、まとめられた課題の中で、小学部・中学部で力を合わせ、正に総力戦で取り組まない限り解決しそうな課題を太字にするなどして、明確に表すことが必要となります。

（この太字などで表す課題を以下「小中重点課題」と表記します。）

「小中重点課題」は、本来であれば、小中の全職員で協議しながら定めるところですが、今回は初めての取組ということで、小中経営部会で協議し、次の通り設定しました。

令和元年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活用力の育成（「全国学テの活用力を問う問題」において小中ともに全国平均以上）
- 2 不登校児童生徒の減少

2 「小中重点課題」の解決に向けて

9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向け、その取組の主体となるのが本日よりスタートする「小中合同研」です。

本年度は、前述の通り「小中重点課題」が二つなので、「小中合同研」を「学力向上部」「生徒指導部」の2部構成とし、それぞれが「小中重点課題」の解決に向け、方策を練り、実践し、その内容を評価するなどして、年間を通して取り組みます。

本日の「小中合同研」の中で、「学力向上部」「生徒指導部」のグループ分けについて説明を行い、その後に各部で課題解決に向けた方略について協議をしていただきますので、よろしくお願ひします。



1 宮崎県都城市立笛水小中学校から視察

6月19・20日の2日間の笛水小中学校からの視察では、先生方には大変ご協力いただき、ありがとうございました。今回の視察では、全体的な学校の様子に加え、「協調学習」「徹底反復学習」「英語学習」「プログラミング学習」等の実際を視察していただくとともに、「本校で取り組む小中一貫教育」について説明させていただきました。笛水小中学校の先生方は大変熱心に見学され、対応した私たちもその姿勢に大きな刺激を受けました。視察の最後に感想をいただくことができましたので、先生方に紹介致します。

笛水小中学校の先生方からの感想

- 子どもたちが学習を楽しんでいる姿に強い印象を受けました。教科の活動そのものを楽しんでいる姿は、きっとそのための各先生方の姿勢や取組があるのだと思いました。飯塚市が進める教育に先生方一人一人が向かいあっていることを感じ取りました。
- 色々なタイプの子どもたちが互いに意見を交えている姿を見ました。とても風通しの良い雰囲気の中で学びを楽しんでいると感じました。
- 徹底反復学習では単に声に出すだけではなく、そのための理論的なことを踏まえた質の高い活動になっていると感じました。
- MIMについては以前から知っていましたが、それを実際に自校の教育に取り入れることはしていませんでした。しかし、ここでは実際にそれを取り入れ、実践しているのですごいと思いました。
- 生徒たちがプログラミング学習を楽しんでいると感じました。また、相互に教え合っている姿が沢山見られ、これも素晴らしいと感じました。
- 中学部の主題研修に参加させていただきました。前半の授業研では、数学の協調学習を見学しました。課題解決に向かって、生徒が主体となり活動している姿を見ました。普段の授業ではどうしても教師側がリードしていることが多く、今回の協調学習を見て「手を離す勇気（生徒にまかせる勇気）」をもらいました。その方が子どもたちの思考力や表現力を高めると感じました。また後半の協議会では、先生方が教科を乗り越えて協調学習を軸に論議をしている姿を拝見し、普段からそれぞれが実践を積み重ねられていると感じました。

笛水小中学校の先生方から感想から普段気づいていない「穂波東校の良さ」を知ることができました。これも普段の先生方のご努力とそれに応える児童生徒の頑張りの成果であると、有難く思います。これから「チーム穂波東校」で力を合わせて一歩ずつ進んでいきましょう！



1 小中一貫教育を通して課題解決！

夏季休業中は小中合同研が主体となり、9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向けて熱心に協議していただきました。そして、各部会より、課題解決に向けた具体的方策が提案されました。以下にその主たる内容を示します。

学力向上部会Ⅰ

日々の授業の中で、活用力の育成を確かなものにするため、5つのポイントを意識した授業づくりに取り組めます。5つのポイントは「穂波東授業スタンダード（仮称）」とし、これを意識した授業づくりに学校全体で取り組めます。

生徒指導部会Ⅰ

不登校の未然防止・解消に向け、「穂波東校アクション3」を定め、全校で日常的に取り組めます。ステージ1は未然防止に向けた取組、ステージ2は早期発見・早期対応に向けた子どもの状況に応じた取組、ステージ3は組織的・継続的な取組が示されています。

学力向上部会Ⅱ

協調学習では、「エキスパート活動で、子どもが専門家になれるための手立ての工夫」「ジグソー活動で、子どもが思考を働かせることができるよう思考の発達段階を考慮した課題設定の工夫」の2点に重点をおいて取り組めます。

生徒指導部会Ⅱ

不登校の未然防止・解消に向け、不登校・不登校傾向の子どもたちの登校や学校生活の状況、家庭状況、関わり方や対応の仕方等の情報が、全体で共有できるように「穂波東校児童生徒カルテ（仮称）」を作り、それを電子データ化していきます。

各部会から提案された具体的方策をこの2学期から皆で取り組み、「活用力の向上」「不登校生の減少」を一步步、着実に進めていきましょう！

※ 各部会からは協議の議事録が提出されています。議事録には、より詳しい内容が具体的に書かれています。グループウェアの掲示板に掲載しますので、参考にされて下さい。

2 笛水小中学校の新たな取組

6月に本校に視察に来られた笛水小中学校が小中一貫教育の新たな取組をスタートされています。

別紙に添付しています「笛水★一貫教育応援通信」をご覧ください。通信のNo.1・2・4には「穂波東校視察のレポート」が詳しく書かれおり、本校の小中一貫教育の特徴や良さを改めて教えてくれます。また、No.5には本校の取組を取り入れた「笛水版・学びタイム」が紹介されており、視察後すぐに新たな取組を立ち上げる熱意と実行力には感服するとともに、刺激になります。

今回の視察のように、来年度の小中一貫教育全国サミットにおいても、本校の教育実践を発信し、他校の小中一貫教育の充実・発展に貢献するとともに、笛水小中学校のように、逆に新たな情報を頂き、そこから新たな学びと刺激を受けるような実りある交流ができればと願っています。



1 困難を乗り越えて 小学部運動会

爽やかな晴天の下、穂波東校小学部運動会が開催されました。小学部の児童たちは約3週間、先生方のご指導の下、一生懸命練習に励み、本番当日ではその成果を十分に発揮し、素晴らしい運動会となりました。

今回の運動会では、練習期間中に2度も台風の接近があり、運営上困難を極めました。台風による雨天の影響で練習時間が削られるだけではなく、熱中症対策のために準備をしたテントは台風が来るたび撤収等の対応を迫られました。小学部の先生方は例年以上に大変であったと思います。本当にお疲れ様でした。そのような中、中学部の部活生と先生方が、テント設営を手伝いました。小学部と中学部がともに助け合う「共助の文化」をこれからも穂波東校の良き文化として継承していければと願っています。



2 「再チャレ学習」のすゝめ

中学部での学力向上の取組の一つに「再チャレ学習」があります。これは、テストで一度間違った問題に対して「再度チャレンジする学習」です。(小学部の先生方には、7・8・9年生毎の「再チャレ学習：解説用プリント」を配布していますのでご参照下さい。)

テストを解きっぱなしにせず、再度チャレンジすることを習慣化することでできれば、学力は確実に向上します。この習慣づくりを児童期より進めることができれば、とても理想的です。

小学部でもテストの×の問題に対して、授業の中や宿題において、再度チャレンジする取組が広がればと願っています。

コラム 「再チャレ学習」と「失敗力」

8年生用の「再チャレ学習：解説用プリント」の中で少し触れているように、「再チャレ学習」は、単にテストの点数を上げるだけではなく、「失敗力」の育成にもつながります。

この「失敗力」とは、失敗から学び、失敗を次の成功につなげていく力のことです。現在、グーグル、スターバックス等の世界的な企業では、失敗力のある人材が高く評価される傾向があります。また、ハーバード大学、スタンフォード大学などの経営大学院の受験では、「失敗設問」といわれる課題が出題され、これまでにどんな失敗をしたのか、その体験から何を学んだのかを具体的に書くことが求められます。

このような傾向の背景には、次のような現実があります。

- 変化の激しい社会の中で、企業や組織は、新しいことに挑戦せず、小さな成功を積み重ねるだけでは生き残れない。
- 企業や組織を成長させるイノベーションは、「挑戦と失敗」なくしては起こり得ない。
- 自分の失敗を語れ、活かすことができる人こそグローバル・リーダーになり得る。

この「失敗力」について関心を持たれた先生方には、次の本をお勧めします。ぜひご一読下さい。

世界のエリートの「失敗力」 ～彼らが〈最悪の経験〉から得たものとは～

著者：佐藤 智恵 PHPビジネス新書



今回は10月24日に呉市立呉中央学園の研究発表会に参加した中学部 嘉村教頭先生のレポートです。飯塚市がモデルとしてきた呉中学園の現在の様子がよくまとめられています。ぜひ、ご一読ください。

呉中央学園研究発表会に参加して

穂波東校中学部 嘉村美津子

(1) 呉市および呉中央学園の概要

呉市は広島県南西部に位置し、瀬戸内海に面しているため明治時代以降は、帝国海軍・海上自衛隊の拠点となっています。また、造船・鉄鋼・パルプなどを中心とした臨海工業としてとして発展しています。

呉市立二河小学校、五番町小学校、二河中学校は平成12年度から7年間にわたり文部科学省（当時文部省）の研究開発学校の指定を受け、全国に先駆けて小中一貫教育の研究をスタートさせました。その中で実施された「4・3・2制の教育区分」「乗り入れ授業」「小中異学年交流」等は、全国の小中一貫校に大きな影響を与えてきました。そして、平成19年度に呉市は二河小学校と五番町小学校を統合して小中一貫校呉中央学園を開校し、平成23年度に施設一体型小中一貫校呉中央学園を開校しました。現在の学校の規模は、小学部の児童数は637名（21学級）、中学部の生徒数は259名（11学級）です。

(2) 研究発表会から学んだこと

呉中央学園の児童生徒の授業の様子は、自分の考えを積極的に発言したり、先生や友達の説明から課題解決に向けて取り組んだりしている子どもたちが多い中、「授業に集中できない」「既習の内容が定着できていない」等の子どもたちの姿も見受けられ、本校と類似していると感じました。

昨年度より市の研修指定を受け、研究主題を「深い学びを実現する授業の創造—思考過程の工夫による授業改善を通して—」とし、小中一貫教育を推進するために教科教育部会、キャリア教育部会、道徳部会の3部会が構成されました。各部の定例会は、月1回ですが各研究部会で提案される取組を1年から9年の各学年会議で共有し、小中全職員が共通実践を行っているということでした。また、今年度は小学部・中学部共に職員の異動による入れ替わりが多く、年度初めに呉中央学園小中一貫教育の研修を行うことでこれまでの教育活動や今年度の教育活動を共有していました。

この他には、不登校児童生徒の解消に向けて、学校独自の個別の記録用紙に生徒の情報及び担任等の取組を学期毎に記録し、情報を引き継ぐことができるように取り組んでいました。

「呉中央学園」として11年目を迎えた小中一貫校の教職員の方々から直接お話を伺い、次の2つのことについて本校でも実践することが必要だと感じました。

- 教務主任がコーディネーター役となって小中間の連絡調整を行い、各研究部の取組を小中合同職員会議や学年会議で検討し、実践する。
- 先達の先生方が築いてきた教育活動を大切にすると共に現在の教育課題を解決するための新たな取組に挑んでいく「ビルド・アンド・スクラップ」で実践する。

今回、呉中央学園から学んだ事を本校の課題解決に向けた取組に生かして行きたいと思います。



今回は 11 月 7～8 日に「小中一貫教育全国サミット IN 堺」のレポートです。参加した 6 名の報告を基に小学部 藺田校長先生が作成されました。ぜひ、ご一読ください。

第 14 回令和元年度小中一貫教育全国サミット IN 堺 参加報告

「縦につながる教育」の一層の充実に向けて～充実した豊かな人生を生き、社会の持続的な発展に貢献する子どもたちの育成～をテーマに、大阪府堺市で行われた全国サミットに参加してきました。

本校の小中一貫教育のさらなる充実のための学びはもちろん、来年度の本市での開催に向けての運営面の情報収集のためでもありました。

2 日間の研修から、主に、来年本校が担う 1 日目の授業公開を中心に、学んだことを報告します。

〈1 日目：授業公開（市内 3 校が公開：内「さつき野学園」を参観）〉

全学級公開され、全体会（研究の説明・講演）の前に教科ごとの協議会が設定されていました。

【外国語活動・外国語の授業から】

1 年生から定期的（2 週間に 1 時間）に外国語活動が位置付けられており、低学年の間に、多くの語彙を習得している様子が見られました。基礎期（1～4 年）活用期（5～7 年）実践期（8・9 年）それぞれで育成をめざす資質能力とそれに向かう活動が系統的に整理された「系統図」が作成されていました。

* 系統図の作成や C-L タイム・小中での学習成果物の共有や授業での活用など、具体策を通して、連携を進めることが必要だと感じました。

* 1・2 年生から取り組むことができればと思いますが、1 単位時間を使った授業を今以上に設定するより、日常生活の中で歌やフォニックス、ゲーム・カード等で単語に出会わせていくことが現実的かつ有効だと思います。

【国語科交流授業から】

4 年生と 7 年生の読書活動「ビブリオトーク」の学習が、グループで行われていました。それぞれの学年に応じた目標設定がされ、上級生の活躍の場と下級生のモデルづくりとして有効に働いていて、施設一体型が活かされた取組でした。

* 本校の C-L タイムでも、それぞれの目標設定と評価を明確にしておくことが必要だと思います。また、英語科だけではなく、他教科でも可能性（効果的な場合）を探ることができそうです。

〈2 日目 生徒指導分科会にて〉

生徒指導分科会では、本市の幸袋中学校が「飯塚市の未来を担い、世界へはばたく子ども育成」という主題において実践発表を行いました。質疑の中では、本市が教育委員会の指導の下、各中学校区が足並みを揃えて様々な取組を展開していることに関心が集まり、改めて本市の教育内容の質の高さを実感することができました。

【今後の取組・来年の発表会に向けて】

* 全国各地からたくさんの方が、小中一貫教育について、また飯塚市の教育・穂波東の取組について、期待をもって学びに来られます。本校の取組をしっかり発信できる会、来られた方が学びにつながるよう日々の実践と共に、粛々と準備を進めていかなければと思いました。

* 取組の足跡が見える掲示物等が整っていました。一気にではなく、今年度から記録（写真や子どもの作品等）を集めておき、計画的な環境整備が必要だと思います。

* 300 名を超える参観者の対応（駐車場・駅からの案内、受付、接待、校舎内の案内等）について計画的な準備が必要だと分かりました。

* 堺市及び大泉学園の授業スタンダードは、思考ツールも含めよく整理されており、本校の授業スタンダードや深い学びにつながる授業づくりの参考になるものだと思います。



○ 「第15回 令和2年度 小中一貫教育全国サミット IN 飯塚」に向けて

12月23日(月)13:30より小中一貫教育全国サミットに向けた小中合同職員会議を行います。会議ではこれから1年間の大まかなスケジュールと、1年後の目標についてお話しさせていただきます。詳細は当日ご説明しますが、これからの1年間の歩みについては次のようなイメージです。

([] がこれから1年間取り組んでいくこと、 [] が1年後の目標です。)



全国サミットではこれらの目標に迫った姿を児童生徒の姿や授業公開、全体説明などを通して、来校された多くの方々に発信できればと願っています。それには先生方のお力なくしては実現できません。

先生方、何卒宜しくお願いします。

小中一貫教育のすゝめ

穂波東校で小中一貫教育全国サミットを受ける以上、私も含め、穂波東校の一人ひとりが小中一貫教育について語れるようになれば、そして、そのための冊子のようなものがあれば良いと思っていました。

このことに対して、私なりに少しずつ取り組み、この度、「小中一貫教育のすゝめ」と題した冊子ができました。12月23日には、この冊子についてもご説明致します。また、この冊子を作成するに際して、ご指導・ご助言をいただきました飯塚市教育委員会 岡松賢吾 係長には深く感謝申し上げます。



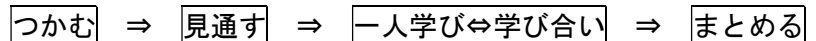
1 穂波東校小中合同研【学力向上部会Ⅰ】

1月22日（水）、「日々の授業の中で、活用力の育成を確かなものにするための取組」＝「穂波東授業スタンダード（5つのポイント）」について、学力向上部会Ⅰの協議会が行われました。

会には、市教委 岡松係長をアドバイザーとしてお招きし、学力向上部コーディネーターの嘉村教頭、田中主幹、古野主幹、代表者の辻先生、高宮先生が参加されました。

会では、「学習の進め方」の試案に対して、様々な角度から検討し、次のような意見が確認されました。

「学習の進め方」の流れ



① 学習の進め方の目的・方法を教師自身がしっかりと研修することが大切！

例えば「つかむ」では、子どもたちを「今日の学習では、こんなことを解決しよう。」とか「こんなことを考えよう。」等の状態に導きます。それでは、この「つかむ」は、子どもたちにとってどんな意味があるのでしょうか。また、「つかむ」状態にするためには、どのような話や教材の提示等が必要なのでしょう。このようなことを私たち教師がしっかりと理解し、その技能を身に付けておくことが大切となります。

② 「学習の進め方」を作ることで体が目的ではない。日々の授業で使えるものを作る！

「学習の進め方」が完成すれば、今後、すべての学級で掲示することになります。このような取組は他校でも多く見られます。しかし、中には「掲示して終わり」「日々の授業で使う事一切なし」といった事もあるようです。穂波東校では、日々の授業で各先生方が活用するような「学習の進め方」の完成を目指していきます。

③ 授業規律の確立こそが「学習の進め方」の土台となる！

特に本校では、授業規律の課題は重要な課題の一つです。そこで、「チャイム席を守る」等、穂波東校9年間を通して徹底させる授業規律のポイントをまとめいくことになりました。

2月14日（金）の小中合同研修会では、以上の内容に加え、学力向上部会Ⅱ、生徒指導部会Ⅰ・Ⅱからも報告・説明をしていただく予定ですので、よろしくお願いいたします。

2 小中合同生徒指導委員会

昨年度、生徒指導担当の先生方を中心に立ち上がった小中合同生徒指導委員会は、今月より月1回の定例とし、月行事の中にも位置付けていきます。

1月28日（火）に今月の委員会が開かれ、これからの穂波東校における「落ち着いた学校づくり」「不登校生の減少」等に向けた取組が確認されました。

具体的な内容については、近日中にグループウェアの掲示板を通じてお知らせしますので、ぜひご確認下さい。

提案された取組が成果に繋がるためには、穂波東校小学部・中学部の先生方が力を合わせて実行することが肝となります。先生方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



1 穂波東校小中合同研

2月14日（金）15：30より穂波東校の小学部・中学部の全ての先生方が参加して本年度の穂波東校小中合同研のまとめを行いました。

本年度は、【生きて働く9年間の教育活動プラン】を目指して研究を進めました。その第一歩として、これまでの「9年間の教育活動プラン」を刷新しました。最大の特徴は、9年間プランの中に「前・中・後の各期における課題」を加え、更にその中で小中が力を合わせて取り組まない限り解決しそうでない課題を「**小中重点課題**」として明記したことです。

令和元年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活学力の育成（「全国学テの活学力を問う問題」において小中ともに全国平均以上）
- 2 不登校児童生徒の減少

そして、4つの部会を立ち上げ、1年間研究を進め、次のような成果等を得ました。（要点のみ記述）

学力向上部会Ⅰ

成果：「穂波東校授業スタンダード」の作成。
課題：「穂波東校授業スタンダード」の活用。
・全職員がその意義等の理解を深める。
・全学級に掲示し、日常的に活用する。

生徒指導部会Ⅰ

成果：「穂波東校アクション3」の作成と活用。
課題：「穂波東校アクション3」の取組の充実。
・職員の意識化の向上と取組の徹底。
・欠席黒板、家庭連絡票等の小中の共通化。

学力向上部会Ⅱ

成果：「穂波東校 協調学習授業観察シート」の作成と活用。
課題：「授業観察シート」の改良。
・1年生から9年生まで同じように活用できるシートの開発。

生徒指導部会Ⅱ

成果：不登校対応「穂波東校引き継ぎシート」の作成。
課題：不登校対応「穂波東校引き継ぎシート」の活用。
・年度末にデータを入力する。

本年度も何かと大変忙しい1年間でしたが、その中で良く研究を進めていただき、本当にありがとうございました。本年度の成果等を次年度に繋げ、更なる「小中重点課題」の解決を図るとともに、この穂波東校の小中一貫教育の取組を全国サミットで発信していきたいと思えます。

2 小中一貫教育全国サミット：研究テーマ（速報）

来年度、飯塚市で開催される小中一貫教育全国サミットの研究テーマについてお知らせします。

飯塚市の研究テーマ

未来を切り拓く資質・能力を育成する小中一貫教育の創造

～9か年の連続性のある「学び」「育ち」を追求した教育活動を通して～

この飯塚市のテーマを受け、穂波東校の研究テーマ（案）は次の通りです。

穂波東校研究テーマ（案）

「社会を生き抜く力の根っこ」を育てる小中一貫教育の創造

～穂波東校「9年間の教育活動プラン」を通して～

この穂波東校の研究テーマ（案）についてのご意見等は、経営部までお願いします。最終的に市教委主催「小中一貫教育全国サミット連絡協議会」で審議され、決定されます。

令和2年度

開校3年目





1 穂波東校開校3年目を迎え

本年度、穂波東校は開校3年目を迎えます。本だよりも発行第28号を迎えます。

開校時に発行した「本だより第1号」を改めて読み直すと、次のような一文を書いていた。

…新しい学校ができるというのは、数十年に一度あるかないかの大きな出来事であり、そのような歴史的な場面に同じ学校にいる先生方や子どもたちとは運命的なものを感じます。小学部・中学部合わせて、70名を超える職員と、900名を超える児童生徒とともに、穂波東校の新しい歴史を創り上げていくことになるわけですが、開校から約3年間で創り上げた姿が、その後、何十年と続く、穂波東校の基礎となり、土台となっていくことを考えると、私たちの使命、役割は大きなものがあると感じます。…

平成30年4月18日

その節目となる年度が、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休校から始まりました。正に青天の霹靂^{へきれき}です。刻々と変わる事態、次々と出される通知の中で、新たな対応を積み重ねる日々が続いています。

穂波東校：これまでの新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応(一例)

- 家庭訪問による「児童生徒の健康状態等の把握」「課題の配布」「家庭学習の状況の確認」。
- 臨時休校に係る各家庭や児童生徒への各種お知らせ(今日まで延べ60件以上の「すぐメール」を配信)。
- 臨時休業中の家庭学習課題の作成。 ○ 規模を縮小した中での卒業式、入学式の実施。
- 児童クラブへの支援。 ○ 臨時休校下での受験指導。 ○ 臨時出校日の実施。
- 出勤と在宅勤務に二分した業務の実施。 ○ 分散登校に向けた準備。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた通常勤務・家庭訪問・消毒作業における実施要項の策定と周知。

このような目まぐるしい日々においても、この穂波東校の小学部と中学部は伴に力を合わせ、知恵を出し合い、同一歩調、一枚岩の取組を粛々と積み上げることができています。これも先生方一人一人が、小中一貫校の職員としての自覚と使命感を持って取り組んでおられるお陰と、深く感謝しております。

今回のような非常事態の中で、これまでに創り上げてきた小中一貫校穂波東校の底力に改めて気づくことができました。

2 新しい生活様式(その1)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、社会の有り様は急速に変化しています。

その一つに「新しい生活様式」への変化があります。日常生活の中で「3密を避ける」「こまめに手洗い・手指消毒を行う」「咳エチケットを徹底する」「身体的距離を確保する」「毎朝の体温測定、健康チェックの実施し、風邪等の症状がある場合は自宅で療養する」等の生活様式を取り入れることが強く求められています。先生方は既にこの「新しい生活様式」の実践に取り組まれている事と思います。

そして、来週から始まる分散登校の中で先生方は、児童生徒に対し、「新しい生活様式」の定着に向けた教育実践に取り組んでいかれます。

「新しい生活様式」を定着させる事は、新型コロナウイルス感染防止に加え、未来ある子どもたちには深い意義があると考えます。先生方から「新しい生活様式」に係る指導を受けた子どもが、将来、再び今回のような「新たなウイルスとの戦い」に直面した場合、どうなると思いますか。私は、今回指導を受けたことが土台となり、現在の私たち以上に適切な判断と行動をとることができる大人になっていると思います。先生方には、今回の指導を通して、子どもたちにそのような力を養っていただきたいと願います。

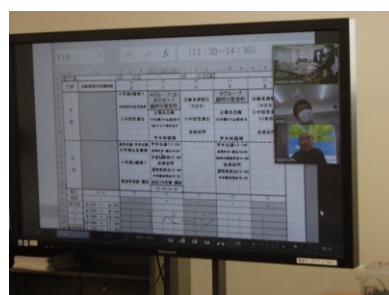
3 新しい生活様式（その2）

新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会変化は他にもあります。

その一つがテレワークです。先日、中学部ではテレワークによる「経営部と学年主任の会議」を実施しました。分散登校に向けた会議を約1時間行いました。互いに顔を見ながら会議をするだけではなく、画面を切り替えると、提案文書を提示することもでき、普段通りの会議を行うことができました。



双方向通信による会議



画面上に提案文書を提示

この他には、小学部・中学部ともに、動画配信を活用した教育活動を実施しました。この取組では、次のような点を留意しました。

動画配信の際の留意事項

- 動画配信では、家庭でのインターネット環境の有無により児童生徒間で差が生じないように、「あくまでも配布したプリントの補足説明に留める。」等の配慮を行う。
- 家庭に動画が見られるインターネット環境が無い児童生徒は、分散登校等において、図書室のパソコン(7台)で見ることができる環境を整える。(図書室のパソコンのデスクトップ上に動画をはりつける。)
- 動画は学校 HP に掲載するのではなく、「すぐメール」にて児童生徒に直接配信する。(直接、動画をアップしたアドレスを配信する。)
- 曲を入れたり、図やイラストを提示したりする際は、フリーの物を使い、著作権侵害にならないよう注意する。

配信された動画(一例)



家庭学習の課題の補足説明



ストレッチの紹介・説明



担任からメッセージ

動画の再生回数は意外と多く、在籍児童生徒数以上(学年によっては2倍以上)の再生回数がありました。新型コロナウイルス感染拡大は、強い力をもって社会を大きく変化させています。負の部分も沢山ありますが、チャレンジ精神をもって臨めば、未来志向の新たな価値を見い出すこともできます。

これからも先生方のお力をいただきながら、穂波東校として一步一步前に進みたいと思いますので、よろしくお願ひします。



1 「小中一貫教育全国サミット in 飯塚」開催中止

昨日、飯塚市教育委員会より「小中一貫全国サミット in 飯塚について、大会事務局より開催中止の通知がありました。」と連絡達示がありました。全国大会での発表に向かって、これまで様々な小中一貫教育に係る教育活動を創造し、積み上げてきた私たちとしては、大変残念なことではありますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から受け入れざるを得ない結論であると思います。

令和3年度の全国サミットは、既にその発表が決まっている北海道北広島市で開催されます。令和4年度以降の全国サミットについては未定です。

「小中一貫全国サミット in 飯塚」は中止になりましたが、これからも先生方のお力により誰もが「穂波東校で良かった。」と思えるような学校へと育てていきたいと願っております。



2 令和2年度 穂波東校：9年間の活動プラン

本日の小中経営部会において「令和2年度 穂波東校：9年間の活動プラン」の内容が確認されました。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、異学年交流等、様々な小中一貫教育の取組の実施が困難な状況にありますが、限られた条件下で、できることを積み上げていこうと思います。

特に学力向上においては、これまで、小学部・中学部ともに協調学習を主軸として取り組んできたところですが、これも十分な対話的活動を設定することが困難な状況にあります。

そこで、昨年度より穂波東校として研究を進めてきました「穂波東校授業スタンダード」をベースとした授業づくりを通して、小中の学力向上の取組を進めていこうと思います。

「穂波東校授業スタンダード」は、「めあて」や「まとめ」等のポイントを押さえた、所謂、授業技術の基礎基本に立った授業づくりです。福岡教育大学 鈴木邦治先生のご指導を受けながら、取組を進めていこうと思いますので、よろしくお願いします。

尚、詳細については、7月14日（火）に予定されております小中合同研修会でお伝えします。

また、当日、既に各先生方には配布しております冊子「小中一貫教育のすゝめ」を使いますので、準備をされますようお願いします。



1 コロナ禍における「小中一貫教育の取組」（その1）

本年度に入り、コロナ禍において、穂波東校：小学部と中学部が最も重点的に力を合わせて取り組んできたことは、「新しい生活様式を取り入れた学校生活」づくりです。先行事例が無い中、小中経営部が中心となり様々な学校生活の場面ごとに対応マニュアルをつくり、小中の先生方の協力により、日々マニュアルに基づいた取組が実施されています。

穂波東校：新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた各種対応マニュアル

家庭訪問編、校内消毒編、通常の学校生活編、登校時の検温編、避難所開設編、感染者判明時編 etc.

一方、昨年度まで取り組んできた様々な小中一貫教育の取組はその実施を見送っています。

穂波東校：昨年度上半期までに実施した小中一貫教育の取組

- 「平和学習の折鶴づくり」（中学部の生徒が先生役となり、小学部の低学年に折鶴づくりを教える）
- 「小中合同表彰式」（中学部の部活生の優勝式や賞状の披露を小中合同の場で行う）
- 「児童と美術部員によるオブジェづくり」（美術部員の手ほどきを受けながら児童がオブジェをつくる）
- 「チャレンジ授業」（6年生児童が中学部エリアに出向いて中学部の先生方から授業を受ける）
- 「小中合同研究部会」（小中の先生方が部会に分かれ、グループ討議等を通して研究を深める） etc.

このように昨年度を振り返って見ると、小中一貫教育の取組も「人と人が触れ合い、交流し合う活動」を土台にしていたことが改めて分かりました。

2 コロナ禍における「小中一貫教育の取組」（その2）

コロナ禍では「人と人が触れ合い、交流し合う活動」を実施することが困難です。かと言って、穂波東校の小中一貫教育の取組を停滞させるわけにはいきません。

本年度、小中の研究部が中心となり、次のようなコンセプトにより児童生徒の学力向上に向けた小中合同の研修に取り組みます。

穂波東校：研究部「本年度の研究の進め方（一部抜粋）」

本年度は、コロナ禍で「新しい生活様式」が学校生活でも実践されています。

一方、このような状況下、「知識構成型ジグソー法」での協調学習をこれまで通りに実践することは困難な状況でもあります。

そこで、児童生徒の学力向上に向け、昨年度本校独自に研究してきた「穂波東校授業スタンダード」に軸を置き、主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりに取り組んでいきたいと思っております。

10月1日（火）、福岡教育大学教授 鈴木邦治先生を講師としてお招きし、「コロナ禍における主体的・対話的で深い学びの在り方」「穂波東校授業スタンダードの価値づけ」等について研修を行います。

この研修会を通して、「コロナ禍における主体的・対話的で深い学びの実現」に向け突破口となるヒントを掴むことができると願っています。



「令和2年度 第9回 穂波東校小中経営部会（9/28）」では、下半期における「穂波東校の小中一貫教育の取組」について話し合いが持たれました。その内容を要点のみお知らせします。

1 「令和2年度飯塚市教育委員会研究指定・委嘱校」としての研究のまとめ

市の研究指定・委嘱校としての成果物（研究紀要）は、年内の完成を目指し、作成に取り組みます。スケジュールの概要としては、11月の下旬までに原稿を取りまとめ、内容の点検を行い、1月の中旬までには印刷・製本を終え、1月下旬に市教委へ提出する予定です。

現在、経営部を中心に取組を進めていますが、協力依頼があった際は、よろしくお願いします。



2 穂波東校：小学部・中学部の学力向上の取組

小学部・中学部ともにNRT・フクトの結果分析を行い、「穂波東校の子どもたちの学力を上げるためには、今どのような取組が必要か。」について、それぞれ話し合いが持たれました。小中経営部会ではその内容を交流しました。

(1) 小学部の取組

小学部の2～6年生を対象に、週1時間、NRTで誤答が多かった問題（算数）を教材にした取組を実施します。児童を習熟度別に分け、そこで問題の直しをさせ、学力の定着・向上を図ります。担任だけでなく、管理職や専科の先生方を含め全員で取り組みます。

(2) 中学部の取組

授業改善・徹底反復学習・家庭学習の3方向から学力向上に取り組みます。授業改善では「穂波東校授業スタンダード」、徹底反復学習では「社・理・数等の小テスト」、家庭学習では「復習を中心とした自学ノート」を軸に取り組みます。

小中ともに「誤答に再度チャレンジさせること」を重視した取組である点は共通しています。

小中の取組の成果が、半年後のNRT・フクトに反映されることを大いに期待しています。

再チャレ学習

3 チャレンジ授業

穂波東校では、5、6年生の児童が中学部エリアに出向き、中学部教員から授業を受ける取組を実施しています。通常の出前授業とは少し異なるこの取組を「チャレンジ授業」と呼んでいます。上半期は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「チャレンジ授業」を見送っていましたが、下半期は実施したいと思います。但し、コロナ対策として、原則、中学部教員が小学部エリアに出向いての方法を取ります。また、本年度は授業時数にゆとりがないため、昨年度のように全教科での実施は難しいと考えます。今後、小中の教務主任を中心に実施に向けた調整を行いますので、協力をお願いします。



本年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、予定していた様々な小中一貫教育の取組（小中合同行事、異学年交流、小中合同研修会 etc.）が見送られました。

今回のことで、小中一貫教育はその多くが、人と人とが交わる活動、言い換えると「コミュニケーション・コラボレーションを通して生み出されるイノベーションを目指す活動」から成り立っていることに気付かされました。

さて、本だよりは今回より話題の枠を広げ、「小学部・中学部が互いのことをよく知り合う」を目的に、小・中それぞれの取組を紹介することも行うことにしました。

第一弾は「中学部の ICT 教育の取組」の紹介です。

1 穂波東校：中学部の ICT 教育の取組

先生方をご承知の通り、飯塚市では、新時代に対応した教育を実現するために、市内の全ての児童・生徒に対して、一人1台ずつのタブレット端末の整備が進められています。計画では今年の4月末までに、その整備が完了する予定です。

このタブレット端末が整備されれば、既に整備されているICT機器・環境（電子黒板・教室内のWi-Fi環境・教師用タブレット型パソコン）と組み合わせ、次のような教育活動の展開が可能になります。

- 教室内のWi-Fi環境を使い、生徒がインターネット(検索サイト)を利用し、個々に調べ学習を行う。
- 「自分の考えや調べたこと」等をタブレット端末により「文章、画像、動画」等の様々な表現方法でまとめる。また、「まとめたもの」を他の生徒のタブレット端末や、教師用PCに送信したり、電子黒板に映し出したりするような発表や意見交流を行う。
- タブレット端末を使い、個々の理解度やペースでドリル学習に取り組む(徹底反復学習のデジタル化等)。

飯塚市に整備されるICT機器・環境を活かせば、これまで以上に個に応じた指導（個別最適化された学び）が充実し、基礎・基本の徹底等もより効果的・効率的に取り組むことが可能になります。また、自ら情報を収集したり、文章・画像・動画といった多様な方法で自分が知っていること・考えたことを発信したりする力の育成（思考力・判断力・表現力や情報活用力の育成）においても生かすことができます。

また、児童生徒だけではなく、徹底反復学習や小テスト、宿題等をデジタル化することで、○付けや点数の集計・管理が自動化され、業務の削減にも大きな効果が期待されます。この他にも「ICT機器・環境の活用」には沢山のメリットがあります。このことについては、今後本だよりでも様々な事例をできるだけ分かりやすく紹介していきたいと思えます。

このような「ICT機器・環境」を生かすためには、私たち教師自身がそれらについてのスキルを身に付ける必要があります。そこで、中学部では飯塚市から派遣されたGIGAスクールサポーターを講師とした研修会を実施しました（1月14日）。具体的にはタブレット端末を使った授業の基本について、講師が先生役、教師が生徒役となり、「Google for Education」にあるアプリの活用方法を体験しました。実際に体験してみると、「ガラケーの筆者」でも容易に操作することができました。

中学部では今後も「ICT機器・環境」の活用について研修会を実施していく予定です。また、小学部でも同様の研修会が予定されています。今後、互いに情報を交換しながら、効率的に研修を進めていきましょう。



中学部の研修会の様子(R3.1.14)

「Google for Education（クラウド方式の学習支援ツール）」についての体験的に研修しました。



1 研究紀要の完成 ～開校から3年間の歩み～

本日、先生方の机上に研究紀要を配布しております。開校から3年間の歩みをまとめた紀要です。

本来であればこの紀要を用いて、昨年の11月に全国に向けて「穂波東校の小中一貫教育」を発信する予定でしたが・・・。

穂波東校の先生方が一歩ずつ創り上げた記録が詰まった紀要です。改めて本紀要を読むと、「開校から3年間でよくここまで創り上げたなあ・・・」と感慨深いものがあります。また、本年度本校に着任された先生方にとっては「こんなことに取り組んでいたのかあ・・・」と感じる新たな発見が詰まった紀要だと思います。

学期末・年度末が近づき、日々お忙しいとは思いますが、お時間が少しでも出来ましたら、ぜひご一読下さい。



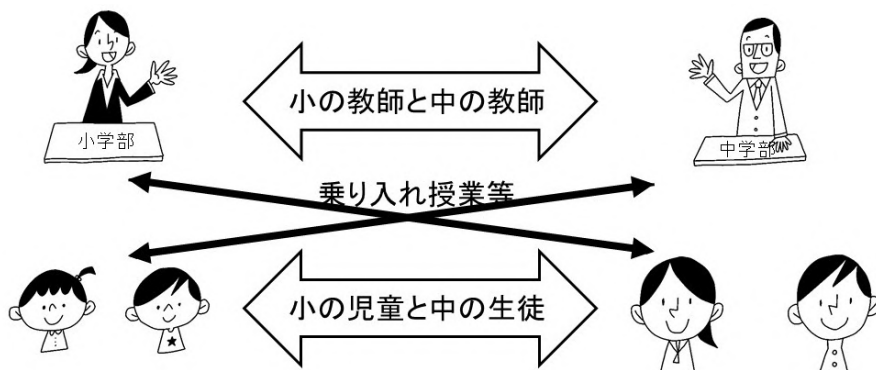
2 令和3年度に向けて ～新たな再出発～

「だより第5号」でも述べましたが、令和2年度はコロナ禍の中で、穂波東校で創り上げられた「小中一貫教育の教育活動」の多くが見送られました。

令和3年度は引き続きコロナの感染状況を注視し、コロナ対策をしっかりと講じつつ、新たな再出発にチャレンジする年度にしたいと考えています。

これも「だより第5号」でも述べたことですが、小中一貫教育の活動はその多くが、人と人とが交わる活動から成り立っています。「児童と生徒」「中学部の先生と児童」等々、異質の者同士が交わることで、そこから新たな気づきや学びが生まれることが、小中一貫教育の意義であり、魅力であると言えます。小中一貫教育の肝は、「異質の者同士が互いの違いを認めつつ、コミュニケーション・コラボレーションを行うことで、そこからイノベーションを生み出していくこと」であると考えます。

これからも穂波東校の先生方の自由な発想、創意・工夫により、新たなイノベーションを生み出す小中一貫教育を共に創り上げていきたいと願っています。



異質の者同士が互いの違いを認めつつ、コミュニケーション・コラボレーション・イノベーション



一貫校開校3年を振り返って…学校教育目標「社会を生き抜く力の根っこを育てる」を考える

2月22日、本校の3年間の軌跡や実践の記録がつづられた「研究紀要」が完成しました。3年目は、コロナ禍で積み上げを図れないことも多々ありました。全国へ発信し、取組を問う機会もなくなりました。ですが、これまでの連携があったからこそ、コロナウイルス感染症への対応も、小中一貫してスムーズに行えたのではないかと思います。

22日に行われた児童向けの中学校入学説明会の中で、仲上先生が、「穂波東校の学校目標『社会を生きぬく力の根っこを育てる』の『社会を生き抜く力の根っこ』って何だと思えますか？」と6年生に問いかけられました。そして、「ルールを守ることも、根っこの1つだ。だから、しっかりその力をつけてほしい。」と話されました。また、その後クラブについての説明の中で菅原先生は、「クラブ活動を通して、厳しいことにも負けたくまじさと、自分の中の可能性を伸ばし、進路を切り拓いていく力をつけてほしい」と話されました。それぞれの立場から、「社会を生き抜く力の根っこ」をとらえ、学校目標の実現に取り組んでいただいているのだと改めて思いました。私自身を振り返ると、本校に赴任した時から、既に設定されていた目標で、漠然としかとらえきれていなかったことに気づかされました。立ち上げに際し、議論した先生方も少なくなってきた今、小中一貫の学校教育目標「社会を生き抜く力の根っこ」について、もう一度共通理解をすることで、その実現に向け、それぞれの持ち場からのアプローチと全職員での実践につながるのではと感じました。

* 小学部から中学部へ：卒業を前にした6年生の取組 *

6年生の実践レポートより

「自分の将来は今の自分と繋がっている！」

総合的な学習の時間で、毎年卒業を前に、自分のこれからの進路について考える単元を設定しています。今年度は、「見つめよう 私の未来～夢実現プラン～」と題して取組を進めました。

- ①仕事について考える。…なぜ働くのか
- ②自分のなりたい職業について考える。
- ③その職業に必要なことを調べる。
- ④高校について知る…紹介DVD・パンフレット
- ⑤中学校生活について知る。

そして、最後に自分の「夢実現プラン」を完成させ、これからの自分について作文にまとめました。

それまでのただのあこがれや夢ではなく、職業としてとらえ、必要な資格や進路についてリアルに向き合い、自分がこれからすべきことを考えることができたようです。今、9年生はまさに進路選択の渦中にいます。確実に3年後向き合う6年生に、一貫校だからこそ、3年後の自分にリアルに向き合わせることもできるのではないかと思います。

中学校への「算数パスポート」に、取り組んでいます！

算数の最後の単元「算数パスポート」は、6年間の学習の総復習の単元です。

毎年ですが、6年担任だけでなく、管理職・専科総動員でサポートしつつ、小学校の算数の学習内容の定着に取り組んでいます。今年は、学年全体を5分割にして、領域毎に学習しました。早く課題を終えた子は、進んで友達に教える姿も見られました。まだまだ、課題も残してはいますが、中学校でも、間違いをそのままにしないで間違いから学ぶ「再チャレ学習」や友達との学び合いを大切にし、力をつけてほしいと思います。

活用力の育成は、小中一貫の課題です。小学校段階から、課題解決のために、課題から要素を抽出する（印をつける）・図や表に表す・関係づけるなどのツールを子どもたちに持たせていくことが必要だと感じています。



令和3年度

開校4年目



1 令和3年度 第1回 穂波東校小中経営部会

穂波東校では、定期的に「穂波東校小中経営部会（以下、経営部会）」を開き、小中一貫教育の推進に取り組んでいます。経営部会は、小学部、中学部の校長・教頭・主幹教諭によって構成され、議題によっては各主任等が加わります。

昨年度は18回の経営部会を開き、「令和2年度 穂波東校：9年間の教育活動プラン」「コロナ対策の在り方」「コロナ禍における授業づくり」「新しいスタイルの学校行事」「GIGA スクール構想」等について協議・情報交換等を行ってきました。

本年度の第1回目の経営部会では、次の内容について協議・情報交換を行いましたので、お知らせします。

(1) 令和3年度 穂波東校：9年間の教育活動プラン

前年度末に行った小中合同「学力向上部会」「生徒指導部会」の協議内容、及び本年度の小中の「学校経営構想」に基づき、経営部会で「令和3年度 穂波東校：9年間の教育活動プラン」（案）を作成します。近日中に小中合同の職員会議を開き、全員でその内容を確認します。

(2) 危機管理マニュアル

危機管理マニュアルについては、基本的に昨年度の内容と変わりません。各自お時間があります時に確認をお願いします。近日中に小中合同の職員会議を開き、要点を絞って危機管理マニュアルの説明を行います。特に「コロナ対策」「大雨対策」については重点的に行います。

(3) 避難訓練

近日中に避難訓練を行いますが、コロナの感染状況を鑑み、小中合同での訓練は見送ります。

(4) 小中合同の生徒指導委員会、特別支援教育委員会

本年も引き続き、小中合同の生徒指導委員会、特別支援教育委員会を月1回のペースで実施します。

2 穂波東校「タブレット開き」

本年度より配布されたタブレット端末を初めて児童生徒が使う「タブレット開き」が順次行われています。小学部では右田先生、梶原先生、中学部では藤田先生、切通先生が中心となり取組を進めています。

「タブレット開き」では、「電源の入れ方」「ID・パスワードの入力の仕方」等、基本的操作の学習を経て、「キーボード島アドベンチャー（タイピング練習用アプリ）」（小学部のみ）、「タブレット・ドリル」「Google Classroom」の使用を学習します。そこでは、失敗を恐れずに、次々と操作をし、短時間で慣れていく子どもたちの様子を見ることができます。

今後、小学部の低学年でも「タブレット開き」を行います。低学年では、他学年からの応援が必要となります。その際にご協力をお願いします。



「タブレット開き」で「キーボード島アドベンチャー」に取り組む児童たち



「タブレット・ドリル」で学習する「かがやき学級1」の生徒たち



1 9年間を通じた子どもたちの学びと育ち

(1) 「穂波東校小中一貫教育だより」：新たなチャレンジ

子どもたちの9年間の学びと育ちをしっかりと捉えることは、小中一貫教育の肝と言っても過言ではありません。そこで、「穂波東校小中一貫教育だより」では、小学部・中学部の先生方が、互いに児童・生徒の学びと育ちをこれまで以上に深く捉えていただくことをねらいとして、新たな情報発信にチャレンジします。

(2) 小学部1年生「ひらがな指導」

今回は、小学部から中学部への情報発信です。

さて、中学部の先生方は「子どもたちは最初からひらがなの読み・書きができる。」と聞いていませんか。しかし、それは違うんですよ。そのことを伝えられるレポートを小学部の藺田校長からいただきましたので紹介します。

新1年生のひらがな指導

小学部校長 藺田美穂

入学後、国語科の学習は、ひらがなの指導からスタートします(1年生は週9時間)。

とはいえ、まずは、「学習に向かう準備2点」を指導します。この準備2点とは

① 正しい姿勢を取りましょう！ 合言葉は「グー・ペタ・ピン」

お腹と背中の前後にグー1つ分空け、足はペタンと床につけます。背中ピンと伸ばします。

② 正しく鉛筆を持ちましょう。

親指と人差し指で鉛筆を持ち、残りの三本は鉛筆に添えます。

次にひらがな指導です。実は、入学前、既に多くの児童が読むことができ、書くことができる子もいます。それでも、「あ」から順に一文字ずつ、書き順をたしかめながら、止め・はね・はらいに注意して、約2か月かけて指導していきます。ひらがな指導を通して、就学前までの経験の差をできるだけ埋めながら、また、「あ」のつく言葉探しなどで語彙を増やしなが、言葉と体験をつなぎ、入門期の指導を行います。

この入門期のひらがな指導は、指導方法工夫改善(今年は大和先生)を中心に複数体制で行い、児童の実態把握(就学前との引継ぎはいいに行っていますが、1年生の実態はかなり未知数です。)を行いながら、以後の学びへの支援につなげています。

(教科書の内容は、読みを中心に、並行して行います。)



ひらがな指導のようす

今回紹介した「ひらがな指導」は、現在、小学部1年生で取り組まれています。中学部の先生方は、お時間あります時に一度見学に行かれてはどうでしょうか。どの曜日のどの時間帯に行われているかは、小学部の末吉主幹にお尋ね下さい。

5月6日には、各家庭に持ち帰ったタブレット端末が戻ってきます。今回、家庭の通信環境を使い、何かしらのチャレンジをした児童生徒もいると思います。その時の様子について子どもたちから何か話を聞くことができた先生方は、ぜひその情報をご提供下さい。(経営部のメンバーまでお願いします。)



1 令和3年度 穂波東校9年間プラン

(1) 「9年間を見通した・・・」

昨日の「9年間プラン」の小中合同職員会議では、お疲れ様でした。昨日も同じことをお伝えしましたが、小中一貫教育では「9年間を見通した・・・」というフレーズを何度となく耳にします。しかしながら、突き詰めて考えると、「9年間を見通す」ということは本当に難しいものです

(2) 「9年間プラン」の意義

「9年間プラン」では、義務教育9年間で前期・中期・後期の3つに区分します。これにより、「9年間を見通す」ということが、少し容易になります。穂波東校の「9年間プラン」では、知・徳・体の3つの柱で、子どもたちの9年間の学びと育ちをホップ・ステップ・ジャンプといった具合に3段階で捉え、表現するようにしてきました。

(3) これまでの「9年間プラン」

これまでの穂波東校の「9年間プラン」では、前期・中期・後期の連続性を重視してきました。言い換えると、「9年間プラン」の左から右への「横方向」の流れが、ホップ・ステップ・ジャンプといった具合になっているかに力点を置いてきました。一方、「9年間プラン」の「縦方向」の目標・取組・課題の整合性においては、更なる検討が必要でした。

(4) 令和3年度版「9年間プラン」

本年度の「9年間プラン」では、これまで以上に、目標・取組・課題の整合性を意識しました。つまり、「横方向」からも「縦方向」からもこれまで以上に繋がったものが、令和3年度版「9年間プラン」です。

(5) 先生方へのお願い

本年度の「9年間プラン」を更に練り上げたいと考えています。そこで、近日中の学年会や運営委員会等で「9年間プラン」について論議する時間を設けて下さい。そして、そこで出されたご意見等はぜひ経営部にお知らせ下さい。頂いたご意見等を基に、経営部会で最終決定版を作成したいと思えます。

2 タブレット端末の活用

穂波東校では、小学部の右田先生、梶原先生、中学部の藤田先生、切通先生が中心となり、組織的・計画的にタブレット端末の使用法等についての授業を行っています。児童生徒たちは、タブレット端末にすぐに慣れ、覚えも早く、授業を重ねる毎にスキルを向上させています。例えば、5年生以上（中期・後期）の児童生徒は、現段階でほとんどが自分一人で次のような操作ができるようになりました。

- グーグル Googleへログインし、検索機能検索機能を使って、調べ学習をする。
- 「Google Classroom Google Classroom」等の「Google for Education Google for Education」の様々な教育用アプリの基本的操作を行う。
- 「タブレットドリル タブレットドリル」を使用する。



タブレット端末の操作方法について学習する生徒たち

穂波東校では、各先生方のご努力のお陰で「タブレット端末のスキル習得」において、第一段階の目標を達成したものと考えます。

今後は他の学校での事例等を参考にしながら、更に活用方法の充実を図りたいと思えます。



1 令和3年度 第5回 穂波東校小中経営部会議 (R3. 6. 17)

第5回小中経営部会議で協議した中で、主な内容のみ、以下の通りお知らせします。

(1) 「令和3年度 穂波東校：9年間の教育活動プラン」における小中重点課題

先日の小中合同職員会議で確認した本年度の「9年間プラン」を基に、「小中重点課題」(小学部・中学部の協働体制で取り組む課題)を設定しました。「小中重点課題」を表記した「9年間プラン」をグループウェアの「お知らせ」に掲示しております。

令和3年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活用力の育成、基礎基本の確実な習得 (二極化の解消)
- 2 不登校児童生徒の減少

この「小中重点課題」の解決に向け、昨年度に引き続き、「小中合同研究会」を立ち上げます。「小中合同研究会」は「学力向上部会」と「生徒指導部会」の2部構成とし、穂波東校の先生方はいずれかの部会に所属していただきます。

後日、各先生方の「部会の所属割(案)」を校務分掌割を基に小中経営部会で作成し、提案させていただきます。

(2) 令和3年度 チャレンジ授業

本年度も中学部の先生方が小学部の児童を対象に授業を行う「チャレンジ授業」を実施します。

「チャレンジ授業」のねらい

- ① 「中1ギャップ」の解消を図ること
- ② 中学部の学習(より専門的な学習)を経験させること

昨年度は、コロナの関係で、「一部の教科のみ」の実施でしたが、本年度は全教科での実施を計画しております。

小学部の古野教頭先生を窓口に、小学部高学年の先生方の希望を集約したところ、現在までに、次のような希望が出されています。

教科	学年	内容	時期	教科	学年	内容	時期
英語	5年	中学部に向けた授業体験	10月下旬	美術	6年	水彩画について(倶展に向けて)	10月上旬
体育	5年	リレーに関する技術等	9月上旬	国語	6年	漢文について	10月上旬
美術	5年	鑑賞について、水彩画について	11月上旬	総合	6年	中学部への進級について	12月

前述の通り、本年度は全教科でのチャレンジ授業を実施します。上記表以外での希望があれば、古野教頭先生まで申し出て下さい。

もし、小学部の先生方からの希望が無ければ、中学部の方で内容等を決め、取組を進めていきます。



1 令和3年度 穂波東校小中経営部会

7月14、26日に開いた「穂波東校小中経営部会」で協議した内容をお知らせします。

(1) 穂波東校小中合同研究会（8月6日）について

本年度の「9年間プラン」を基に設定した「小中重点課題」（小学部・中学部の協働体制で取り組む課題）に向けて、「小中合同研究会」を立ち上げ、本格的な取組を始動させます。

以前にも本だよりで紹介しましたが、「9年間プラン」の取組は、平成25年度に小中一貫校穎田校で始まり、その後、飯塚市教育委員会の指導の下、飯塚市内全中学校区に広がった、言わば、飯塚市オリジナルの取組です。更にこの「9年間プラン」に「小中重点課題」を位置付けたのは、この穂波東校が最初です。「9年間プランがこれまで以上に自校の課題解決につながることをねらい（「生きて働く9年間プランになること」をねらい）、「小中重点課題」を位置付けました。

本年度の「小中重点課題」は、「だより4号」にてお伝えしました通り、次の通りです。

令和3年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活用力の育成、基礎基本の確実な習得（二極化の解消）
- 2 不登校児童生徒の減少

この「小中重点課題」の解決に向け立ち上げる「小中合同研究会」は、「学力向上部会」と「生徒指導部会」の2部構成とし、穂波東校の先生方はいずれかの部会に所属していただきます。

所属割については、校務分掌割等を参考にしながら、経営部会にて割り振り致しました。

8月6日（15:00～）では、本年度の「小中重点課題」の解決に向け、各先生方のお知恵を頂きながら、実効性のある取組内容を構築したいと考えております。ぜひご協力をお願いします。

(2) 凡事徹底「挨拶」について

穂波東校では開校以来、凡事徹底を重点課題とし、「9年間プラン」にも位置付けながら、9カ年を通した教育に取り組んでいます。

小中経営部会では、この凡事徹底の中でも、特に「挨拶」のことが話題になりました。

各先生方も同様に感じているかもしれませんが、「進んで、元気よく挨拶できる児童生徒が少なくなっている。」ということが話題になりました。「マスクを着けていると、進んで、元気よく挨拶する気持ちに成り難いのでは。」という意見もありましたが、「もう一度、穂波東校全体で挨拶の指導をしっかりと取り組もう。」という事を確認しました。

実は先日の中学部での終業式の折、仲上先生より全生徒に対して「挨拶ができるようになろう。」というご指導がありました。特に部活生には熱いメッセージが送られました。その日の午後、筆者が部活動の様子を見に行くと、早速多くの部活生が元気な挨拶をしてくれました。

穂波東校の児童生徒は素直に先生方の指導を受け入れます。ぜひ、凡事徹底「挨拶」にこれまで以上にご指導いただきますようお願いします。

**1 小中一貫教育全国サミット in 北広島（北海道）【デジタル開催】**

11月12日（金）、「小中一貫教育全国サミット in 北広島【デジタル開催】」が開催されました。

大会の様子は、アーカイブ配信されますので、ぜひ視聴されてみて下さい。

(1) 全国サミット：全体会

全体会では開催地の市長、教育長のご挨拶の後、北海道教育大学 教授 内山隆 氏による基調講演「小中一貫教育の推進による『令和の日本型学校教育』の実現へ」が行われました。

そして、全体会最後の共同宣言において、令和4年度開催地が発表されました。

「令和4年度 小中一貫教育全国サミット in 飯塚」

この宣言により、来年度の飯塚市における全国サミットの開催が正式に決まりました。

また、このことはその発表校として穂波東校・顕田校・幸袋校が決まったことにもなります。

今後、穂波東校小中経営部が中心となり「無理・無駄のない取組」になるよう、且つ「穂波東校の更なる発展」になるようリードしていきますので、ご協力をお願いします。

(2) 全国サミット：公開授業

北広島市の3中学校区が各テーマに基づき、公開授業を行いました。

中学校区名	小中一貫校形態	公開授業のテーマ
東部中学校区	施設分離型 (2小1中)	「9年間の学びを教育課程で紡ぐ小中一貫教育」 ～「見方・考え方」の質を高めていく授業づくりを通して～
西部中学校区	施設隣接型 (1小1中)	「地域・学校が創造する西部地区の小中一貫教育」 ～コミュニティ・スクールを基盤とした9年間の教育活動 づくりを通して～
広葉中学校区	施設分離型 (1小1中)	「共に学び、共に高め合う子どもを育てる小中一貫教育」 ～9年間を見通した小中協同の教育活動づくりを通して～

(3) 全国サミット：分科会

分科会では全国の先進的な小中一貫教育の実践が発表されました。

発表地区	公開授業のテーマ
東京都品川区 北海道八雲町・北広島市	社会に開かれた教育課程 「小中一貫教育とコミュニティ・スクールで地域の未来を創る学校づくり」
兵庫県姫路市 北海道札幌市・中標津町	カリキュラム・マネジメント 「全教職員が一体となって創造する小中一貫したグランドデザインとカリキュラム・マネジメント」
岐阜県土岐市 北海道様似町・北広島市	学力・体力向上 「子ども達の実態に応じて作成する小中一貫したカリキュラムと、それを通じた指導方法の工夫と授業改善」
京都府京都市 北海道釧路市・厚真町	キャリア教育 「小中一貫したキャリア教育で育む「大志」「ふるさと」「社会性」」
広島県府中市 北海道比布町・千歳町	特別支援教育 「系統性のある教育で、子どもたち一人一人の個性を生かして未来で輝く力を育む特別支援教育」

全体会・公開授業・分科会のアーカイブ配信は、11月12日（金）～12月12日（日）であります。視聴方法は、「グループウェア」の「お知らせ」に掲載しますので、ご確認ください。



今回の「小中一貫だより」では、中学部の取組を小学部の先生方へ紹介します。

1 TFJと連携し、ICTを活用した「新しいスタイルのキャリア教育」

これまで中学部では地域や企業の協力の下、様々な職場体験や職場見学等を通し、生徒たちが多様な職業人と触れ合い、職業観や社会観を広げながら、個々のキャリア形成を図る教育活動（キャリア教育）に取り組んできました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、そのような教育活動を実施することが困難となり、昨年度は実施に至りませんでした。

そこで、本年度は中学部のキャリア教育担当者が中心となり、生徒たちに「職業人との出会いの場面」を創ることを目標にオンラインを活用した新しいスタイルの「GT出前講座」にチャレンジしました。

具体的には「認定NPO法人 Teach For Japan (TFJ)」に依頼し、多様な職業経験を持ち、且つ情熱を持って子どもたちにメッセージを伝えることができる方を紹介していただき、「GT出前講座」の実施に至りました。これまでに7年生、9年生で実施しましたが、いずれも素晴らしいGTの方で、生徒たちは「働くこと」「夢を追いかけること」「自分らしく生きること」等々、多くの大切なことを学びました。



9年生：GT出前講座の一場面

講師の中原さん（大阪在住）は、スペインでのプロサッカー選手や日本での小・中学校の教師等の経験を持つ。現在、TFJのCEOを務める。



7年生：GT出前講座の一場面

7年生では、それぞれ医療機器ソフトウェア、外資系総合人材会社、広告会社に勤める3名のGT（東京在住）による出前講座を実施した。

いずれもZoom会議システムを活用しました。GTの講話の後、生徒たちはオンラインでGTへ様々な質問をしました。

今回、TFJの協力を得ることで、容易に多様な人材を確保することができました。

また、ICTを活用することで、遠方に在住でも「GT出前講座」が可能になりました。

今後も中学部では、今回創り上げた新しい手法を用いて、キャリア教育のみならず、他の分野においても「新しいスタイルの教育活動」にチャレンジしていきたいと思えます。



1 令和3年度 穂波東校小中経営部会（第11回）

今回の経営部会では、ICTを活用した新しいスタイルの「かけ算九九ボランティア」（11月29日～）、3学期から改めてスタートする「チャレンジ授業」等について話し合いました。

また、「だより第5号」でもお知らせしました「令和4年度 小中一貫教育全国サミット in 飯塚」に向けた話し合いも行われました。

(1) 「令和4年度 小中一貫教育全国サミット in 飯塚」に向けて

現在、小中経営部会で着々と準備を進めています。既に、研究紀要の項立は決まり、年度内の「研究紀要の第一次原稿」の完成を目標に取り組んでいます。そして、来年度当初に第一次原稿を基に研究発表会の全体像を先生方にお伝えする予定です。

研究発表会では、すべてのクラスで授業公開を実施します。どのクラスも「穂波授業スタンダード」をベースとして、「学力向上（協調学習等）」「プログラミング教育」「英語教育」「ICT教育」「キャリア教育」「異学年交流」等のテーマに沿った授業を公開していただく予定です。

これからも小中経営部は「無理・無駄のない取組」を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。

2 小中一貫教育に基づく「新しいスタイルのキャリア教育」

～ 体験型学習プログラム：「スチューデント・シティ」「ファイナンス・パーク」～

(1) 飯塚市キャリア教育推進モデル校

飯塚市では令和5年度から市内小中学校において「新しいスタイルのキャリア教育」に関する教育プログラムを導入します。それは児童生徒が「キャリア教育の学習プログラムを体験できる施設」に行って、「企業の活動」「生活とお金の関係」「銀行の役割」等を体験的に学習する教育プログラムです。

この教育プログラムは、子どもたちに様々な経済教育に関する教育プログラムを提供する活動に取り組んでいる「公益社団法人ジュニア・アチーブメントジャパン（JA Japan）」が作成したものを活用します。

穂波東校ではその調査研究協力校としてモデル校の指定を受け、来年度より実際にその教育プログラムに基づいたキャリア教育に取り組みます。

(2) 教育プログラムの概要

仙台市、いわき市、京都市等で既にこの教育プログラムに基づいたキャリア教育が実施されています。そこで使用された単元計画や学習シート等を活用して、同様の教育活動を実施することになります。

体験活動は1日のみです。事前学習に6時間、事後学習に2時間がこの教育プログラムの全体時間です。対象学年は小学校5年生と中学校7年生です。体験活動はすべて地元の企業のバックアップの下、実施されます（「飯塚市：お仕事スタジアム」をイメージして下さい）。

(3) 教育プログラムの具体的内容

別紙資料として、現在この教育プログラム導入の中心的な役割を担っている中学部 犬丸教頭先生が作成した資料：「キャリア教育（JAプログラム）」を配布しております。ぜひ参考にされて下さい。



○ かけ算九九ボランティア

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった「穂波東校：かけ算九九ボランティア（以下、九九ボラ）」が新しいスタイルで復活しました。穂波東校オリジナルの「小中一貫教育の取組」の一つである「九九ボラ」が復活し、大変うれしく思います。

本年度はこれまでの対面式ではなく、オンラインを使つての方式です。中学部生徒たちがタブレット端末の画面越しにかけ算九九を覚えてたての小学部2年生の児童たちの暗唱を聞き、「バッチリ、合格！」「おいしい！しく、さんじゅうろくだよ。」等と声をかけながら指導を行いました。

今回も「九九ボラ」により、児童たちは意欲的に九九の暗唱に取り組み、予定されていた3週間の中で、ほとんどの児童が九九を覚えることができました。中学生たちも意欲的に取り組み、自己有用感や自尊感情の高まりを見取ることができました。そのような児童生徒たちの「九九ボラ」終了後の感想等を紹介します。

2年生児童の感想（中学生に向けたメッセージ）の一例

- 九九をきいてくれて、ありがとうございました。九九ボランティアのお兄さん お姉さんのおかげで九九がいえるようになりました。
- いつも九九をきいてくれてありがとうございました。休み時間をとってまでありがとうございました。
- 九九をきいてくれて ありがとうございます。きいてくれて うれしかったです。また九九をがんばります。
- 九九でぜんぶ言えたら「おめでと〜う」と言ってくれて うれしかったです。これからも九九をれんしゅうしたいと思います。
- わたしたちの九九を聞いてくれてありがとうございました。顔を見てやるきができました。またあのシールを作ってください。

かけ算九九ボランティアに参加した生徒の感想の一例

- 2年生が一生懸命頑張っていてとても感動しました。私は3週間参加したのですが、日に日に2年生が成長していたのですごいなと思いました。とても楽しい昼休みを過ごせました。
- 参加して思ったことは、みなさんが礼儀正しく最初に「お願いします」など言えていてえらいなと思いました。これからも勉強を頑張ってください。
- 初めての体験でとても楽しかったです。九九を間違えた時にやさしく教えることが難しかったです。これからも九九ボランティアの取り組みがあるときには自分から九九ボランティアに参加していこうと思います。
- リモートで九九ボランティアをするのは緊張すると思ったけど、2年生のかわいい笑顔で緊張がほぐれた。2年生のおかげで楽しく九九ボランティアをできてよかった。
- 私には今3年生の妹がいます。妹が去年の九九の練習をしているのを見て、今の2年生に九九を教えてあげたいと思い参加しました。みんな上手ですごくおどろきました。とても楽しかったです。

今回、このような新しいスタイルの「九九ボラ」ができたのも、穂波東校の先生方のお陰です。ボランティアの生徒の応募に働きかけをされた中学部の先生方、事前指導を含め「九九ボラ」に関わる様々な指導に取り組まれた小学部の先生方、そして運営面において中心的役割を果たされた小学部の船越先生、大和先生、中学部の高峰主幹、技術面を担当された小学部の右田先生には深く感謝致します。

これからも穂波東校では、児童と生徒が互いに学び合い、高め合うことができる教育活動を先生方のお力をいただきながら創造していきたいと願っています。



タブレット端末の画面に向かって、九九を暗唱する児童たち



身振り手振りを加えながら、九九の指導に取り組む生徒たち



九九ボラ終了後、生徒から届いたメッセージを読む児童たち



九九ボラ終了後、児童から届いたメッセージを読む生徒たち



1 穂波東校小中合同研

2月8日（火）、穂波東校の小学部・中学部の全ての先生方が参加して本年度の穂波東校小中合同研のまとめを行いました。

本来であれば、各部会に分かれ、小・中の先生方による意見交流を通してまとめを行うところですが、現在のコロナ感染の状況を踏まえ、個々にまとめを行い、ロイロノートを使って集約する方式に変えました。そして、各先生方から大変貴重なご意見を多数いただくことができました。その一部を紹介いたします。

学力向上部会Ⅰ

目標：日々の授業の中で「基礎学力の定着・活用力の育成」を確かなものにするために「穂波東校：授業スタンダード」に基づく教育実践の在り方を究明する。

- 「穂波東校：授業スタンダード」に基づく教育実践を小中間でのもっと交流した方がよい。
- 「リフレクション」の在り方を具体的にするための研究に取り組むことが必要である。
- 「穂波東校：授業スタンダード」について、まずは教員側がしっかりと意識しなければならないと思う。

学力向上部会Ⅱ

目標：小学部の「学びタイム」「スタディアップ」や中学部の「チャレンジタイム」「再チャレ」を繋ぎ、9年間を通して「基礎学力の定着」が図れるよう交流・検証・改善を行う。

- 小中ともにタブレット端末を活用した取組が進んでいる。
- 問題を次々に解かせるだけでなく、定期的に定着度を分析し、定着度の低い内容については、再度取り組ませる必要がある。
- 「基礎学力の定着」には継続的に反復することが必要である。そこで、子どもたちが飽きずに、意欲的に反復に取り組むために工夫が必要であると感じる。

生徒指導部会Ⅰ

目標：「穂波東校：アクション3」に基づく教育実践を通して、不登校の未然防止・解消が図れるよう実証的に取組の検証・改善を行う。

- 「不登校の未然防止・解消」のための「マンツーマン指導」のチーム編成については、現状をしっかりと分析し、より実効性がある編成にする必要がある。
- 学習支援の在り方も視野に入れながら、「穂波東校：アクション3」の更なる改善が必要である。
- 「穂波東校：アクション3」により、どの学年でも共通した組織的な取組を展開することができた。

生徒指導部会Ⅱ

目標：「穂波東校：引き継ぎシート」の活用を通して、9年間を通じた連続的な情報共有を組織的に行い、不登校の未然防止・解消を図るとともに、「シート」の改善に取り組む。

- 「穂波東校：引き継ぎシート」を十分に活用できていない実態がある。
- 「穂波東校：引き継ぎシート」の活用の在り方を具体的に示していく必要がある。
- 「穂波東校：引き継ぎシート」の内容を更に改善することが必要である。

今後は、いただいたご意見をもとに、穂波東校小中経営部会が中心となり、「令和4年度 穂波東校：9年間の教育活動プラン」を作成してまいります。

また、集約した先生方のご意見をグループウェアの「お知らせ」に掲示しておりますので、ご参照下さい。

令和4年度

開校5年目





1 令和4年度 穂波東校：9年間の教育活動プラン

本年度、穂波東校における小中一貫教育のグランドデザインとなる「R4 穂波東校：9年間プラン」の要点をまとめました。これから1年間、この「R4 穂波東校：9年間プラン」に基づいて本校の小中一貫教育を組織的・計画的に展開していくとともに、11月に予定されている「第15回 小中一貫教育全国サミット IN 飯塚」で研究発表・授業公開を行います。別紙の「R4 穂波東校：9年間プラン」を参照されながらしっかりと内容を把握されますようお願いいたします。

(1) 「R4 穂波東校：9年間プラン」の目標

「R4 穂波東校：9年間プラン」の目標は、知・徳・体の3本柱から成り立ちます。

そして、それぞれに「9年間一貫した目標」と「前期・中期・後期の各期の目標」が設定されています。

① 「9年間一貫した目標」

知：【9】学力テスト（NRT・標準学力調査・フクト・全国学テ・県学テ）における全国・県平均以上の学力

徳：【9】凡事徹底（挨拶・掃除・靴並べ・整理整頓・時間を守る・規則を守る）

手本を意識した学校生活を送る力、不登校児童生徒数の減少

体：【9】新体力テスト調査における全国平均達成項目：2分の1以上の体力

② 「前期・中期・後期の各期の目標」

知：【前】学習規律の定着、基礎基本の習得・定着

【中】習得した基礎的・基本的内容を活用する力

【後】他者と協働し課題追求・解決する力

徳：【前】他者を思いやり、自他の良さを認める力

【中】他者と協力して、より良い集団をつくる力

【後】夢の実現に向け、主体的に取り組む力

体：【前】運動への意欲づくり、基本的な生活習慣の確立

【中】運動への習慣づくり、健康的な生活習慣の確立

【後】体力向上・健康増進に向けた実践力



小中それぞれの良さが輝く小中一貫教育

(2) 「R4 穂波東校：9年間プラン」の取組

飯塚市の教育施策に基づく様々な学習指導や、穂波東校独自の取組を通して、(1)に示した目標達成に迫ります。日々実践されている学習指導や取組が、どの目標と関連しているかをしっかりと確認して下さい。

(3) 「R4 穂波東校：9年間プラン」の課題

昨年度末の反省職員会議の内容に基づき、穂波東校が直面する課題を「R4 穂波東校：9年間プラン」の中に示しています。ここに示された課題の内、小学部と中学部が協働してその解決を図る課題を「小中重点課題」として太字で示しています。

令和4年度 穂波東校「小中重点課題」

1 活用力の育成、基礎基本の確実な習得（二極化の解消）

2 不登校児童生徒の減少

3 「これからの時代に求められる資質・能力（英語力・プログラミング的思考力・ICリテラシー等）」の更なる育成

これらの「小中重点課題」の解決に向け、本年度も「小中合同研究会」を組織し、取組を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。



1 小中一貫教育全国サミット

(1) 開催の在り方について

度重なる市教委との協議を経て、「第17小中一貫教育全国サミット in 飯塚（11月4・5日）」は参集方式にて開催されることになりました。市教委との協議では、「新型コロナウイルス感染対策の在り方」を中心に話し合いを重ねました。

この「新型コロナウイルス感染対策の在り方」については、先日、各校長より市教委作成の資料をもとにその具体的な説明を行いました。資料に示された内容に基づき、市教委と連携しながら「安全な大会」になるよう取り組みたいと思います。また、今後の感染状況等の変化によっては、強化若しくは緩和の変更があり得ることを予めご了承ください。

(2) 授業公開の在り方について

授業公開は全学級を対象とし、中でも飯塚市の教育施策と関連が深い5つの授業をモデル授業として発表当日にライブ配信をする予定です。

穂波東校：小中一貫教育全国サミット・モデル授業一覧

内容	対象学年	主担当
穂波授業スタンダードに基づく協調学習	9年	平尾
ICT機器を活用した穂波授業スタンダード	6年	岩倉
「IoTチャレンジ」に基づくプログラミング教育	7年	切通
異学年交流による英語教育（穂波東校 C-L Time）	8年、3年	桑岡、中村
「JAプログラム」に基づくキャリア教育	5年	梶原

尚、授業公開の在り方については、6月23日（木）に穂波東校小中合同研修会を開き、スケジュールや指導案の書き方等を中心に説明する予定です。

2 転入・着任者対象研修

本年度、穂波東校に転入・着任された先生方を対象に研修会が開かれました（5月24日）。

転入・着任者対象の研修会は、穂波東校が開校2年目（令和元年度）より続けている取組です。

転入・着任された先生方と共通理解を図り、共に穂波東校の歴史を創る仲間となることを目的としています。

昨年度までこの研修会の講師は山本が務めていましたが、本年度は講師を古野教頭、犬丸教頭が務め、「穂波東校が目指す小中一貫教育」「施設一体型の強み」「教育活動の具体（異学年交流など）」「小中一貫教育推進のための組織」などについての説明を行いました。

プレゼンや別紙資料が準備された、とても分かりやすい講義でした。





1 穂波東校小中合同研修会 ～穂波東校授業スタンダード～

(1) 穂波東校授業スタンダード

穂波東校では、令和2年度より、福岡教育大学 教授 鈴木 邦治 先生のご指導の下、小学部・中学部ともに主題研究に「穂波東校授業スタンダード（以下、授業スタンダード）」を位置付け、次の目標に向かって取組を積み重ねています。

授業スタンダードのねらい

- 小中連続した「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 教師主導の「教え込む授業」から児童生徒が主体となる「考え学びとる授業」への授業改善

小中一貫教育全国サミットにおいても、穂波東校では、「授業スタンダード」に基づく多様な教育活動を公開していきます。

(2) 穂波東校小中合同研修会

6月3日（金）、鈴木教授をお招きし、穂波東校小中合同研修会（以下、合同研）を実施しました。

鈴木教授は、まず二つの授業（提案授業）を見られ、これに基づき「授業スタンダード」に関わる理論や事例について講義されました。

① 提案授業

提案授業は、小学部から秋吉先生、中学部から平尾先生が代表して行いました。

秋吉先生は、跳び箱運動の授業（4年生）において、「児童がタブレットやワークシートを使い、自分の跳び方を客観的に捉える」「グループ活動を通して、自分の跳び方の課題解決を図る」等の学習活動を通して、「より大きく、美しい跳び方」に迫る授業を展開されました。

また、平尾先生は、論理的文章を題材とした国語の授業（9年生）において、「生徒が本論の内容を段落ごとに図式化する」「具体と抽象の関係に着目し、文章構成の特徴を説明」等の学習活動を通して、「具体化と抽象化の方法の理解」に迫る授業を展開されました。



タブレットを使って動きを確認（4年生）



グループで相互に動きをチェック（4年生）



内容を段階ごとに図式化（9年生）



文章構成の特徴を相互に説明（9年生）

二つの提案授業は、「授業スタンダード」の示された「つかむ」→「見通す」→「一人学び」→「学び合い」→「まとめる」の各段階の在り方を具体的に示してくれました。

② 鈴木教授の講義

鈴木教授は二つの提案授業の各場面と結びつけながら「授業スタンダード」の要点を解説されました。その幾つかを以下にまとめました。

ア ゆらぎや葛藤を生み出す課題と出会わせる

子どもたち既有の知識や経験に基づき、子どもたちが心理的にゆらぎや葛藤を生み出す課題を提示することで、主体的に課題を追求する意欲を引き出す。

イ 学習活動中のつぶきやきを保障し、価値づける

子どもたちのつぶきやきから、子どもたちの状況を把握する。特に、つまづきが見取れた場合、教師はその解決に向け、その子どもに対して適切に必要な「ヒト・モノ・コト」を提示する。

ウ 「一人学び」で孤独にさせない

「一人学び」に主たる目的は「自分なりの考えを創る事」である。それは「自分一人で創る」ではない。

エ 「まとめ」「ふりかえり」は子どもの言葉で表現する

「まとめ」「ふりかえり」は子ども自身が納得する（腑に落ちる）言葉で表現することで、真に自己の学びとなり得る。



授業をされた平尾先生、秋吉先生の自評



鈴木教授による「授業スタンダード」のご講義



ご講義の中で、最後に鈴木教授が示された「授業スタンダードの本質」は深く心に残りました。

授業スタンダードの本質

- スタンダードは、子どもが（に）「守るもの・守らせるもの」ではなく、子どもが自ら「創り出すもの」。
- 「学習の主体である子どものための授業スタンダード」に向かって、常に更新していくもの。

今回の合同研では、小中一貫教育全国サミットにおける「授業スタンダード」に基づく指導案の書き方を飯塚市教育委員会 永水指導主事を講師にお招きし、研修します（6月23日予定）。



1 小中一貫教育全国サミット in 飯塚：授業公開に向けて

(1) 穂波東校小中合同研修会

小中合同研修会では、小中の研究主任と、市教委の指導主事の説明・講話を通して、「サミット：公開授業に向けた取組の実際や見通し」「サミットに向けた穂波東校の取組の価値」を明らかにすることができました。



サミット公開授業における穂波東校指導案づくりでは「小中一貫教育の視点から単元をとらえ、穂波東校授業スタンダードに基づき本時の授業を構成する」等について、岩倉先生、平尾先生が説明されました。



「小中一貫教育の視点からとらえた単元観の具体例」「穂波東校授業スタンダードに基づく授業づくりの実際」「穂波東校の小中一貫教育の良さ」等について分かりやすく永水指導主事が講義をされました。

また、小中合同研修会では、筆者が「公開授業までのロードマップ」を示し、11月4日（金）の授業公開日までに「6つのステップ」があることを説明しました。そこで改めて確認します。

本日7月1日より「ステップ2」に入ります。「ステップ2」では、「授業者は公開する授業の構想づくりに取り組む。」となっています。「どの単元で、どのような小中一貫教育の視点を持って、どのような授業を構成するか」について、今月末までに構想をまとめられますようお願いいたします。

(2) 「サミット：公開授業」におけるコンセプト

前述したように、今回の小中合同研修会を通して、改めて本校の小中一貫教育の価値を再認識することができました。そこで、「サミット：公開授業」において、「このような公開授業になれば良い」という思いをこめ、そのコンセプトをまとめてみました。

小中一貫校穂波東校では、小学部・中学部共通の学校教育目標「社会を生き抜く力の根っこを育てる」の達成に向け、本校の小中一貫教育のグランドデザインである「穂波東校：9年間の教育活動プラン」に基づき、小学部と中学部が連携・協働しながら、組織的・計画的に教育活動を展開しています。

その中の一つである授業づくりは、「教師主導の『教え込む授業』から児童生徒が主体となる『学び取る授業』への改善」を目指し、1学年から9学年まで一貫して「穂波東校授業スタンダード」に基づいて取り組まれています。公開授業では、飯塚市の教育施策に基づくキャリア教育、プログラミング教育等、多様な授業を「穂波東校授業スタンダード」に基づき提案させていただきます。

このような公開授業の実現に向け、ステップ2→ステップ3・・・と、その取組が進みますよう先生方のご努力とご協力をお願いいたします。



1 小中一貫教育全国連絡協議会による視察

(1) 視察の概要

7月22日（金）、「第17回 小中一貫教育全国サミット in 飯塚」の開催に向け、小中一貫教育全国協議会（以下、協議会）による視察が実施されました。

協議会は品川区教育委員会事務局に設置されているため、同教育委員会指導課の課長、係長、指導主事の3名の方が来飯され、午前中に飯塚市教育委員会事務局との「サミットの運営に関する協議」等を午後に穂波東校を来校され、その進捗状況や施設の確認等を行いました。

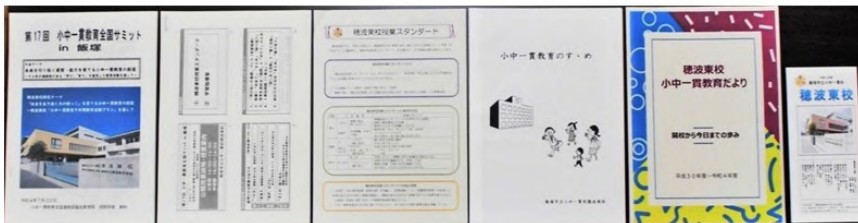
(2) 穂波東校の視察

① 進捗状況の説明

穂波東校の視察の前半では、「全体のスケジュール表（裏面資料参照）」や「研究紀要や実践発表の第一次原稿」等を示しながら、全国サミットに向けた本校の進捗状況を説明しました。

これに対して協議会より「穂波東校の取組は順調に進んでいる。」「穂波東校授業スタンダードを通して、日常的な『主体的・対話的で深い学び』の実現に取り組んでいることは価値がある。」との評価をいただきました。

また、質疑の中で協議会より「これまでの全国サミットの公開授業において、授業としては大変素晴らしい内容だが、小中一貫教育の視点に欠けるものを多く見てきた。この点について穂波東校ではどのように取り組むか。」という質問が出されました。この質問に対して「指導案の単元観において、本単元に関わる内容だけではなく、本単元に繋がる前後の単元に関わる内容を記述することを通して『子どもたちの学びの過去・現在・未来をつなぐ視点をもった授業づくり』の実現に取り組めます。」と回答し、ご理解をいただきました。



協議会・飯塚市教委事務局への穂波東校経営部からの「進捗状況の説明」の一場面

説明会で配布した資料

左より「研究紀要」「実践発表のプレゼン・読み原稿」「公開授業関連資料」「小中一貫教育のすゝめ」「穂波東校小中一貫教育だより（開校からの歩み）」「学校紹介パンフレット」

② 施設の確認

視察の後半では、授業公開を行う各教室や、発表会を行う大アリーナのづくりや状況等を確認されました。



大会当日の来校者の動き等をシミュレーションしながら、校舎内の様々な場所を確認されました。

全国サミットに向けた夏季休業中の取組は「指導案の作成」と「環境づくり」となります。

夏季休業中と言えども、研修会や諸会議、中学部は部活動大会等、忙しい日々が続きますが、何卒よろしくお願い致します。



1 令和4年度 第2回 穂波東校小中合同研修会

8月5日（金）、「穂波東校『9年間の教育活動プラン』」における小中重点課題の解決に向けた「穂波東校小中合同研究会」を実施しました。

(1) 武井教育長からのご挨拶

合同研究会に先立って、飯塚市教育委員会 武井政一 教育長より激励のお言葉をいただきました。

武井教育長は、現在、穂波東校の全職員が一丸となって小中一貫教育全国サミットに向け鋭意取り組んでいることに感謝の意を伝えられました。

また、これまでの飯塚市における小中一貫教育推進の歩みや、本市が小中一貫教育を軸に様々な教育施策を展開していること等についてお話しされました。



穂波東校の職員にお話をされる武井教育長

(2) 各部会からの報告

本年度の穂波東校の小中重点課題の解決に向け、穂波東校の先生方はそれぞれ三つの部会に分かれ、課題解決に向けた協議を行いました。そして、各部会から次のような協議内容が報告されました。

① 学力向上部会

- 学力向上に向けた小学部と中学部のそれぞれの取組の現状等について情報交換を行った。これらの取組を通して、小中ともに、基礎学力育成において一定の成果を挙げている。今後、小中の職員が実際にそれぞれの取組状況を見学に行き、更なる改善を図る必要がある。
- 活用力の育成に向けた改善策を策定する必要がある。
- 小学部は国語の学力向上において成果を挙げている。このことで中学部より「小学部に学びたい。」との要望が出ている。

② 生徒指導部会

- 中学部での不登校の兆候は、小学部在籍時から見て取れる。その背景として、基本的生活習慣の未定着（家庭内での指導の在り方に課題がある）、低学力（授業についていくことが厳しい）等が挙げられる。これらを改善するためにも、家庭（保護者）により一層働きかけることに加え、家庭内での指導を支援する体制づくりが必要である。また、低学力に対して、放課後の補充学習等のサポートが必要である。

③ 未来の教育部会

- キャリアパスポートの更なる活用を通して、キャリアプランニング能力の育成等を図る必要がある。
- 「体験型経済活動プログラム（JAプログラム）」は、情報不足により、手探りの状態であるが、全国サミットに向けてしっかりと取組を進めていきたい。
- ICT機器の活用において、「どこで使うべきか」をしっかりと見極めていくことが肝要である。今後の実践を通してそれを明らかにしていきたい。

令和4年度 穂波東校小中合同研究会

部会	前年度の取組（教育活動）を通して明らかになった課題（※小中重点課題）
学力向上部会	活用力の育成、基礎基本の確実な習得（二極化の解消）
生徒指導部会	不登校及び不登校傾向児童生徒の減少
未来の教育部会	「これからの時代に求められる資質・能力（英語力・プログラミング的思考力等）」の更なる育成

※小中重点課題⇒前年度までの課題の内、合同研に基づく取組を必要とする課題



1 穂波東校「チャレンジ授業」

(1) 「チャレンジ授業」とは

穂波東校の小中一貫教育の取組の一つに「チャレンジ授業」があります。

この「チャレンジ授業」とは、「中1ギャップの解消」や「小学部段階でより専門的な学習経験をする」等を目的に、中学部の教員が小学部の5・6年の児童を対象に教科指導を行う取組です。

また、「チャレンジ授業」を実施する場合、事前に小学部の先生方に対して「どのような内容で実施することが効果的か。」等を聞き取り、そのニーズに基づき内容を決めていきます。

本年度の「チャレンジ授業」の予定は、以下の通りです（一部実施済）。

令和4年度 5年生での「チャレンジ授業」

教科 指導者	国語 清水先生	数学 進登先生	社会 都築先生	理科 伊藤先生	音楽 松尾先生
内容	古文に親しむ	図形の面積	日本の工業・貿易	物の溶け方	オーケストラの魅力
時期	10月	11月	11月	11～12月	7月
教科 指導者	美術 松永先生	技術 切通先生	家庭 法橋先生	保体 菅原・長濱先生	英語 桑岡先生
内容	顔・体の描き方	プログラミング	食事の役割・栄養バランス	走り方・バトンパス	He is a music teacher
時期	9～10月	12月	10～11月	9月	12月

令和4年度 6年生での「チャレンジ授業」

教科 指導者	国語 坂田先生	数学 山下先生	社会 河野先生	理科 伊藤先生	音楽 松尾先生
内容	古文「いにしへの言葉」	中学数学への導入	日本とつながりの深い国々	ビックリ実験	合唱の基本
時期	1月	2月	1月	12月	2月
教科 指導者	美術 松永先生	技術 切通先生	家庭 法橋先生	保体 菅原・長濱先生	英語 高宮先生
内容	版画の基本	プログラミング	中学家庭科への導入	走り方・バトンパス	簡単な英会話
時期	11月	10月	3月	9月	12月

(2) 「チャレンジ授業」の実際 ～6年生 保体 「走り方・バトンパス」～

9月15日（木）、6年生の児童を対象に、中学部保健体育科の菅原先生、長濱先生による「チャレンジ授業」が行われました。

今回、小学部6年生の先生方から「9月30日（金）に予定されている「穂スポフェスタ」でのリレー競技に向けた内容で実施して欲しい。」との希望があり、「チャレンジ授業」の内容は、「リレー競技で「より早く走り、より早くバトンパスをする方法。」になりました。



中学部の菅原先生より走り方の指導を受ける児童たち。



足の上げ方等に気をつけながら「速く走るための練習」に取り組みました。



中学部の長濱先生よりバトンパスの指導を受ける児童たち。



リレーの記録が伸びるように「バトンパスの練習」に取り組みました。

本日の「チャレンジ授業」を受けた6年生が、「穂スポフェスタ」でその成果を発揮し、小学部最高学年生として下級生たちに「走り方やバトンパスの仕方」の手本を示してくれることを期待しています。